

授業科目名：英語学I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 陸 君（山崎 君子）
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 外国語（英語））		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語学		
授業のテーマ及び到達目標 中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する英語学的知見を身に付ける。 英語の音声の仕組みについて理解している。英語の文法について理解している。 英語の歴史的変遷及び国際共通語としての英語の実態について理解している。			
授業の概要 英語という言葉の輪郭と背景をできるだけ身近なところから理解してもらう為に、1回ごとに教科書の各章の冒頭に設けられた「解かれる疑問」を導入テーマとして、何を学んで欲しいかを明確にした上で本題に入り勉強する。最後に「課題」に従って事例を探し理解を深める。英語が系統的に他言語とどのような関係にあるか、発音とスペリングのずれ、他言語からの影響、標準的な英語の誕生、イギリス英語とアメリカ英語の特徴を学び、英語そのものの仕組みを、音、単語、文と段落で学ぶ。アクセントやリズムも理解する。			
授業計画 第1回：全体の授業紹介・英語の歴史変遷 第2回：イギリス英語とアメリカ英語 第3回：国際共通語としての英語 第4回：英語とカタカナ英語、発音練習 第5回：英語発音の概要について 第6回：英語母音1（単母音、巻き舌）、発音練習 第7回：英語母音2（二重母音、強弱）、発音練習 第8回：英語の子音（無気音）、発音練習 第9回：英語の子音（有気音）、発音練習 第10回：英語の構造・5文型の特徴について 第11回：名詞・代名詞、空欄埋め・選択・作文の練習 第12回：形容詞・副詞、空欄埋め・選択・作文の練習 第13回：前置詞・複詞、空欄埋め・選択・作文の練習 第14回：現在分詞・過去分詞、空欄埋め・選択・作文の練習 第15回：全体のまとめ			

定期試験	英語学全体の理解テスト		
テキスト	「はじめての英語学 English Linguistics: An Introduction Revised Edition」 長谷川瑞穂編集 研究社		
参考書・参考資料等	特になし		
学生に対する評価	毎回の授業への取り組み 40% 期末試験 60%		

授業科目名：英語学Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 陸 君（山崎 君子）
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 外国語（英語））		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語学		
授業のテーマ及び到達目標 中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する英語学的知見を身に付ける。 英語の音声の仕組みについて理解している。英語の文法について理解している。 英語の歴史的変遷及び国際共通語としての英語の実態について理解している。			
授業の概要 英語という言葉の輪郭と背景をできるだけ身近なところから理解してもらう為に、1回ごとに教科書の各章の冒頭に設けられた「解かれる疑問」を導入テーマとして、何を学んで欲しいかを明確した上で本題に入り勉強する。最後に「課題」に従って事例を探し理解を深める。英語そのものの仕組みと構造を、音、単語、文と段落で更に深く学び、自身も綺麗な発音で話せる。生徒に対して理解可能な言語インプットを与え、生徒の理解を確かめながら英語でインタラクションを進めていく柔軟な調整能力を身に付ける。			
授業計画 第1回： 授業計画と達成目標の紹介 第2回： 言葉と音声・単母音と複母音の発音器官 第3回： 音素と音節 第4回： 音の変化 第5回： 声調・リズム・連読 第6回： 会話、短文の朗読 第7回： 英単語の構造① 語源学etymology 第8回： 英単語の構造② 接頭辞prefix 第9回： 英単語の構造③ 接尾辞suffix 第10回： 英単語の構造④ 反対語antonym 第11回： 英単語の構造⑤ 類語synonym 第12回： 英語の意味拡張：隠喩metaphorと換喩metonymy 第13回： 英文の速読テクニック 第14回： 英文の精読テクニック 第15回： 全体のまとめ			

定期試験
テキスト 「はじめての英語学 English Linguistics: An Introduction Revised Edition」 長谷川瑞穂編集 研究社
参考書・参考資料等 特になし
学生に対する評価 毎回の授業への取り組み 40% 期末試験 60%

授業科目名：英語文学 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中窪 靖 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 外国語（英語））		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語文学		
授業のテーマ及び到達目標 イギリス文学史の理解に加えて、主要な作品の内容と文学史上の位置づけを理解している。そして、その知識を外国語（英語）の授業に生かすことができる。			
授業の概要 文学史の中の主要な作品を取り上げて講義と講読を交互に配しながら、イギリスの文化と文学についての理解を深め、英語教員として必要な知識と教養を身につけさせる。			
授業計画 第1回：イントロダクションーイギリス文学史の概観 第2回：現代英語の始まり シェイクスピア 第3回：シェイクスピアの『ハムレット』を読む 第4回：小説の勃興 フィールディング、デフォー、スウィフト 第5回：デフォーの『ロビンソン・クルーソー』を読む 第6回：ロマン派詩人 ワーズワース 第7回：ワーズワースの『抒情民謡集』を読む 第8回：イギリスの田舎の限られた世界を描く オースティン 第9回：オースティンの『高慢と偏見』を読む 第10回：19世紀の小説 ディケンズ 第11回：ディケンズの『クリスマスキャロル』を読む 第12回：20世紀の小説 ブルームズベリーグループ ウルフ 第13回：ウルフの『ダロウェイ夫人』を読む 第14回：戦後のイギリス文学 怒れる若者たち ウェイン、エイミス、マードック 第15回：マードックの『鐘』を読む 定期試験は実施しない。			
テキスト よくわかるイギリス文学史（やわらかアカデミズム・<わかる>シリーズ） 浦野 郁、奥村 沙矢香（編） ミネルヴァ書房			

参考書・参考資料等
なし
学生に対する評価
小テスト 40%、課題の提出 30%、毎回の授業への取り組み 30%

授業科目名：英語文学 Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 陸 君（山崎 君子） 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 外国語（英語））		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語文学		
授業のテーマ及び到達目標 アメリカ文学における歴史や主要作家の全貌を把握し、英語が使われている地域の文化についても理解している。また、文学作品において使用されている様々な英語表現について理解している。英語で書かれたアメリカ文学を学ぶ中で、英語による表現力への理解を深めるとともに地域の文化について理解し、中学校及び高等学校における外国語科の授業に生かすことができる。			
授業の概要 アメリカ文学史を日本語で解説した本を基に、植民地時代から国家の誕生、文学の誕生～20世紀までの全貌を紹介しながら、主要作家の主要作品を英語で講読していく。使用する教科書は作品の原書や翻訳書も付記されて、原書を読める学生の便をはかる為に作品解説の目次にも明記されているので、スムーズにアメリカ文学史と主要作品の基本を習得できる。			
授業計画 第1回：アメリカ文学の概観 第2回：第1章：植民時代から19世紀初期までの概観・移住記録から政治文章まで 第3回：第2章：ジャクソニアン・デモクラシー時代から南北戦争まで概観（1829～65） 第4回：詩・随筆・評論：超越主義達 / 保守主義達 / そのほかの詩人達 / 小説 第5回：第3章：南北戦争から第一世界大戦まで（1865～1914）の概観 第6回：時代背景・小説・詩 第7回：第4章：二つの世界大戦の間（1915～45）の概観・小説・詩・演劇 第8回：第5章：第2次世界大戦以後（1945～）の概観 第9回：小説（南部作家 / 黒人作家 / ユダヤ人系作家 / 1960年以降の文学）・詩・演劇・批評 第10回：主要作家作品概観 第11回：R.W. Emerson, “Self-Reliance” / E.A. Poe, “The Fall of the House of Usher” 第12回：M. Twain, <i>The Adventures of Huckleberry Finn</i> / H. James, <i>The Ambassadors</i> 第13回：T.S. Elliot, <i>The Waste Land</i> / F.S. Fitzgerald, <i>The Great Gatsby</i> 第14回：E. Hemingway, <i>The Sun Also Rises</i> / J. Steinbeck, <i>The Grapes of Wrath</i> 第15回：S. Bellow, <i>The Adventure of Augie March</i> / J.D. Salinger, <i>The Catch in the Rye</i>			

定期試験
テキスト アメリカ文学史 付：主要作家作品解説 英宝社
参考書・参考資料等 An Outline of American Literature (Peter B, High) Longman
学生に対する評価 毎回の授業への取り組み40% 試験60%

授業科目名：英語リーディングⅠ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 中窪 靖 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 外国語（英語））		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
平易な英文の音読ができる。そして、それを読解できる基本的な文法知識と語彙力がある。			
授業の概要			
比較的平易な英文を、文法を確認しながら、音読の練習をまじえて読解する。また、英語を語順のままで理解する訓練をする。			
授業計画			
第1回： 習慣を表現する：現在形の文章を読む			
第2回： 言換えに慣れる：代名詞に注目して、文章を読む			
第3回： 済んだことを、点で表現する：過去形の文章を読む			
第4回： ばらばらに捉えるか、まとまりとして捉えるか：可算名詞と不可算名詞に注目して、文章を読む			
第5回： 英語ので・に・を・は：時と場所を表す前置詞に注目して、文章を読む			
第6回： 一般的な事実と、今起こっていることと：現在進行形の文章を読む			
第7回： 尋ねることと、確認すること：疑問詞に注目して、文章を読む			
第8回： 動作を表す表現形式あれこれ：動名詞・不定詞に注目して、文章を読む			
第9回： これから先のことを表現する：未来を表す文章を読む			
第10回： 二つを比べる、一番を表現する：比較級・最上級に注目して、文章を読む			
第11回： 言葉のニュアンスを表現する：助動詞に注目して、文章を読む			
第12回： 過去の出来事が、今何を引き起こしているのか：現在完了形の文章を読む			
第13回： 二つの内容を、一つの文で表現する：従属接続詞に注目して、文章を読む			
第14回： 動作をするものと、されるものと：受動態に注目して、文章を読む			
第15回： 後ろから説明を加える：関係詞に注目して、文章を読む			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
Reading Link 基礎文法で学ぶ大学英語リーディング			
Robert Hickling、臼倉 美里（編著）			
金星堂			

参考書・参考資料等
なし
学生に対する評価
小テスト40%、課題の提出30%、毎回の授業への取り組み30%

授業科目名：英語リーディングⅡ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 中窪 靖
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 外国語（英語））		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
やや高度な英文の音読ができる。そして、それを読解できる文法知識と豊かな語彙力がある。 さらに、読解した文を真似て簡単な英文が書ける。			
授業の概要			
様々な英文を読解しながら、高度な文法運用能力を身につける。さらに、読解した文章を再構成しながら英文を作る訓練をする。			
授業計画			
第1回：現在形と現在進行形の違いを意識して、事実と意見を述べた文章を読解する			
第2回：第1回で読解した文をもとに、事実と意見を述べた文章を書く			
第3回：自動詞と他動詞の違いを意識して、事物を分類する文章を読解する			
第4回：第3回で読解した文をもとに、事物を分類する文章を書く			
第5回：可算名詞と不可算名詞の違いを意識して、提案や助言を表す文章を読解する			
第6回：第5回で読解した文をもとに、提案や助言を表す文章を書く			
第7回：人称代名詞を意識して、指示と主題が明示された文章を読解する			
第8回：第7回で読解した文をもとに、指示と主題が明示された文章を書く			
第9回：過去形と過去進行形の違いを意識して、同じ表現の重複を避ける文をもとに読解する			
第10回：第9回で読解した文をもとに、同じ表現の重複を避ける文章を書く			
第11回：助動詞を意識して、無生物主語の文をもとに読解する			
第12回：第11回で読解した文をもとに、無生物主語の文章を書く			
第13回：疑問代名詞と疑問副詞を意識して、部分否定を用いた文をもとに読解する			
第14回：第13回で読解した文をもとに、部分否定の文章を書く			
第15回：動名詞と不定詞を意識して、違いと類似点を述べた文をもとに読解する			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
Jigsaw INTRO – Insightful Reading to Successful Writing			
パラグラフのパターン別に学んで磨く 英語力＜初級編＞			
Robert Hickling、八島 純（編著）			

センゲージラーニング株式会社
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 小テスト４０％、課題の提出３０％、毎回の授業への取り組み３０％

授業科目名：イングリッシュスキルⅠ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 陸 君（山崎 君子）
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 外国語（英語））		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
①生徒に英語を楽しく教えられる英語運用能力と自信を持てるようになる。			
②基本的な語彙を用い、日常的な話題について話すこと（やり取り・発表）ができる。			
③基本的な語彙を用いた日常的な話題について聞いて理解することができる。			
④英語学Ⅰで学んだ理論を実践し、指導できるよう、発音スキルを身につける。			
授業の概要			
生徒の理解に応じた英語で授業を行うための英語運用能力を身につけることができるよう、授業は以下のように行う。			
1）生徒に英語を楽しく教えられるよう、さまざまな英語活動を行い、指導する基盤を身につける。			
2）簡単な英語でまとまった話ができるよう、会話練習やペアでの会話発表をする。			
3）英語のまとまった話が聴き取れるよう、リスニングのトレーニングを行う。			
4）英語の発音スキルを身につけ、指導できるよう、クラス全体練習と個人練習を行う。			
授業計画			
第1回：授業の紹介・英語の発音、母音、子音；学生の自己紹介で英語力を計る。			
第2回：日本語と英語の母音の違いについて、日常ミニ会話の聞き取りと会話練習			
第3回：英語の単母音：舌、歯、唇に関係ある発音、関連単語と例文で補強練習			
第4回：日本語の二重母音/ 英語の二重母音、関連単語と例文で補強練習			
第5回：母音と二重母音の復習、日常ミニ会話の聞き取りと会話練習			
第6回：英語の子音について：摩擦音/舌/歯/唇部位発音等の練習			
第7回：唇子音の練習・関連単語と例文で補強練習、日常ミニ会話の聞き取りと会話練習			
第8回：舌音の練習・関連単語と例文で補強練習、日常ミニ会話の聞き取りと会話練習			
第9回：巻き舌の練習・関連単語と例文で補強練習、日常ミニ会話の聞き取りと会話練習			
第10回：鼻音の練習・関連単語と例文で補強練習、日常ミニ会話の聞き取りと会話練習			
第11回：歯と舌の子音・歯と舌の子音の練習・英語子音の復習、授業開始前のSmall Talk			
第12回：日本人にとって紛らわしい発音と区別の練習、授業開始前のSmall Talk			
第13回：発音用語の基礎知識：母音vs子音 無声音vs有声音、授業中使用する英語指示用語			

第14回：英語発音記号のまとめと復習、英語で授業を行う基本用語の復習

第15回：学生により英語短文の朗読・ペアで3分間の会話発表

定期試験

テキスト：

DVD&CDでマスター 英語の発音が正しくなる本 （鷲見由理 著）ナツメ社

参考書・参考資料等

ALC英語レスキュー・シリーズ：音読で英文法をモノにするドリル

学生に対する評価

毎回の授業への取り組み 30% 朗読やペア会話練習・発表30% 定期試験40%

授業科目名：イングリッシュスキルⅡ	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：陸 君（山崎 君子）
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 外国語（英語））		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
①生徒に英語を楽しく教えられる英語運用能力と自信を持てるようになる。			
②中級レベル(英検 2 級相当)の語彙を用い、日常的な話題について自然に話すこと（やり取り・発表）ができる。			
③中級レベル(英検 2 級相当)の語彙を用いた日常的な話題について聞いて理解することができる。			
④英語学Ⅱで学んだ理論を実践し、中上級英単語の発音記号を正しく自然に発音できるようになる。 また会話を通して柔軟な調整能力を身につける。			
授業の概要			
生徒の理解に応じた英語で授業を行うための英語運用能力を身につけることができるよう授業は以下のように行う。			
1) 生徒に英語を楽しく教えられるよう、さまざまな英語活動を行い、指導する技能を身につける。			
2) 英語でまとまった話ができるよう、会話練習や英語プレゼンテーションをする。			
3) 様々な場面で英語のまとまった話が聴き取れるよう、リスニングのトレーニングを行う。			
4) 英語の発音が正しく流暢にでき、指導できるよう、クラス全体練習と個人練習を行う。			
授業計画			
第1回：授業の紹介・学生の自己紹介 3分間で英語力を計る。			
第2回：日本語のカタカナと英語の発音の違いについて、日常会話の聞き取りと会話練習			
第3回：英単語の連読方法、関連単語と例文で補強練習			
第4回：英語の声調、関連単語と例文で補強練習			
第5回：英文のアクセント発音、日常会話の聞き取りと会話練習			
第6回：英語の段落朗読法、クイズで英単語の勉強活動			
第7回：イラストで基礎会話の聞き取り、推測とメモ・復唱することで補強練習			
第8回：イラストで中級会話の聞き取り、推測とメモ・復唱することで補強練習			
第9回：ミニビジネス英会話の聞き取り、問答式のコツとメモすることで補強練習			
第10回：ミニアカデミー英会話の聞き取り、問答式のコツとメモすることで補強練習			
第11回：日常旅行会話の聞き取り、質問により内容把握とメモする練習			

第12回：日常生活会話の聞き取り、質問により内容把握とメモする練習

第13回： 英語でEmailの書き方、英語で授業を行う常用語の紹介と練習

第14回： 英短文の書き方、英語で授業を行うスキルの紹介と練習

第15回： 全体の復習・一人で3分間の英語プレゼンテーション

定期試験は実施しない。

テキスト：

DVD&CDでマスター 英語の発音が正しくなる本 （鷺見由理 著）ナツメ社

参考書・参考資料等

ALC英語レスキュー・シリーズ：音読で英文法をモノにするドリル

学生に対する評価

毎回の授業への取り組み 50% 朗読やペア会話練習20% 英語プレゼンテーション30%

授業科目名：英語ライティング	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：中窪 靖
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 外国語（英語））		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
様々な話題の文章を例として、目的や場面や状況に応じた英文が書ける。エッセイを書くようにして、300単語の英文が書ける。			
授業の概要			
平易であるがまとまった英文を読解して、それをまねるようにして英文を構成する訓練を繰り返す。教壇で自信をもって英語で発話できることを目標に、和文英訳をするのではなく、エッセイを書くようにして英文を作成する。			
授業計画			
第1回：反対の内容を導く：but を用いて文を作る			
第2回：反対の内容を導く：however を用いて文を作る			
第3回：反対の内容を導く：though, although を用いて文を作る			
第4回：原因・理由を伝える：because を用いて文を作る			
第5回：原因・理由を伝える：so, therefore を用いて文を作る			
第6回：順序だてて伝える：first, second, finally を用いて文を作る			
第7回：追加する：also を用いて文を作る			
第8回：第7回目までの履修範囲の総括として、200単語の文章を書く			
第9回：仮定の話をする：if を用いて文を作る			
第10回：反対の主張を受け入れる：even so を用いて文を作ってみよう			
第11回：具体的な情報を補足する：such as を用いて文を作ってみよう			
第12回：具体的な情報を補足する：for example を用いて文を作ってみよう			
第13回：比べる：while を用いて文を作ってみよう			
第14回：強く主張する：in my opinion を用いて文を作ってみよう			
第15回：第9回目以降の履修範囲の総括として、300単語の文章を書く			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
Get the Signal – Discourse Markers for Reading and Writing – リーディング & ライティングの「目」じるし			

佐藤 選、内野 駿介、Ayed Hasian（編著）

金星堂

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

小テスト40%、課題の提出30%、毎回の授業への取り組み30%

授業科目名：英語プレゼンテーション	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：陸 君（山崎 君子） 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 外国語（英語））		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
単語だけでなく熟語も含めた、基本的な語彙力がある、また聞き取ることができる。 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語でやりとりや発表ができる。 プレゼンテーションスキルを身に着け、発信力を向上させ、中学校及び高等学校における外国語科の授業に生かすことができる。			
授業の概要			
本授業は、学生の英語表現力を高める為に、ディスカッションとプレゼンテーションの練習を通して、英語を使える、発信できるスキルを身につける。様々なトピックスについて、まずは英語ネイティブ話者たちのサンプルを学習し、それから英語でディスカッションをし、最後に一つのプレゼンテーションで完結という形式で、授業を進めていく。最終回に一人5分程度英語スピーチ発表（プレゼンテーション）を行い、達成レベルをはかる。			
授業計画			
第1回：授業と教科書の紹介			
第2回：プレゼンテーションの準備ステップと自己紹介のブレインストーミング			
第3回：プレゼンテーションのテクニック			
第4回：第1回目のプレゼンテーション			
第5回：羨む人々の特質を描写する練習：映画や小説に書かれたヒーローやモデル等			
第6回：人物紹介のプレゼンテーション要点をまとめる・導入と結論を練習する			
第7回：メモカードの使い方・プレゼンテーションするときのアイコンタクト練習 ブレインストーミン構図を使い第2回目のプレゼンテーションを準備する			
第8回：第2回目のプレゼンテーション			
第9回：多種多様な休暇や旅行計画を描写する練習 旅の行き先や活動を描写する練習			
第10回：長い休暇のアイデアをディスカッションする 聞く側に質問をする練習 プレゼンテーションで引用した部分と終わりサインの出し方			
第11回：パワーポイントを用いてプレゼンテーション行うテクニック			

<p>ジェスチャーや動きの練習、ブレインストーミン構図を使い第3回目のプレゼンテーションを準備する</p> <p>第12回：第3回目のプレゼンテーション</p> <p>第13回：調査トピックスと質問についてディスカッションする メモカードを使いながら調査レポート結果をまとめる練習</p> <p>第14回：調査トピックスを紹介するときに、手を挙げる調査を使う練習 調査プレゼンテーション終わり際に、提案や予測あるいは警告を使う練習 また、 広告の使用や重要な情報を強調するテクニックを使い、4回目のプレゼンテーションを準備する</p> <p>第15回：4回目のプレゼンテーション、授業全体のまとめ 定期試験は実施しない</p>
<p>テキスト</p> <p>Present Yourself 1 (2nd Edition) Steven Gershon CAMBRIDGE UNIVERSITY PRESS</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>特になし</p>
<p>学生に対する評価：</p> <p>毎回の授業への取り組み（発表の準備、ディスカッションへの参加度）、40%</p> <p>4回のプレゼンテーション評価、60%</p>

授業科目名：総合英語 A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 陸 君（山崎 君子） 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 外国語（英語））		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
会話に出てきたNative English Speakers の英語を聞き取れる、意味を理解できる。 発音の練習と暗唱した上で、自分もまねて、パートナーと会話ができる。 学期末に、会話のトピックスにより、自然に話すことが出来るようになる。 また100語程度の短文を速読で意味を理解し、空欄に適切な語句を選択できる。 英検とTOIECのリスニング問題、または英検の2次口頭試験の対応力もアップできる。			
授業の概要			
この授業は基本的な文法事項を、色々なタスク（活動）を通して復習し、中級レベルの単語や構文を確認し、英語に苦手意識を持っている人であっても無理なく学習を進めることが出来るようになることを目標にしている。 ① 100語程度の会話を聞き、4つのイラストの順番並べ替え、空欄埋め、会話練習 ② 一つの文法ポイントを復習 ③ 2つの短い会話を空欄埋め、暗唱してペア練習 ④ 100語程度の文章を空欄埋めしてから理解する ⑤ 与えられた語句を使って空所を埋めて短文を完成させ、それを参考にして自分のことについて短文を書く 英語のコミュニケーション能力を身につける為に、学習後ペアでの会話練習発表の際に、発音と流暢さもチェックして指導を行い、短期間で英語の発信レベルを高めることを目指す。			
授業計画			
第1回： 授業計画と達成目標の紹介、学生の自己紹介によりレベル診断 第2回：Native 学生達の自己紹介と挨拶を聞いて順番に4つのイラストを並べ替え、要点をおさえる。再び会話を聞き・T/F問題に答えて理解を深める。ペアで会話の朗読 Target Grammar：現在形と現在進行形 第3回：2つの選択肢から適切な語句を選んで空所埋め、2つの短い会話を完成させ、スピーキングの朗読練習をしてから、ペアの会話発表・Reading：100語程度の短文を読み、「海外へ行く前の荷造り準備」を速読で理解し適切な単語形で空欄埋め。宿題：自分の友人紹介短文を書く 第4回：Native 学生達を空港で迎え挨拶の会話を聞いて順番に4つのイラストを並べ替え、要点を			

おさえる。再び会話を聞き・T/F問題に答えて理解を深める。ペアで会話の朗読

Target Grammar : 数えられる名詞と数えられない名詞

第5回 : 2つの選択肢から適切な語句を選んで空所埋め、2つの短い会話を完成させ、スピーキングの朗読練習をしてから、ペアの会話発表・Reading: 100語程度の短文を読み、「英語中の外来語と日本語英語」を速読で理解し適切な単語形で空欄埋め。宿題 : 自分の好き嫌いを書く

第6回 : Native 学生達と日本人学生の寿司屋での会話を聞いて順番に4つのイラストを並べ替え、要点をおさえる。再び会話を聞き・T/F問題に答えて理解を深める。ペアで会話の朗読

Target Grammar : 代名詞の使い分け

第7回 : 2つの選択肢から適切な語句を選んで空所埋め、2つの短い会話を完成させ、スピーキングの朗読練習をしてから、ペアの会話発表・Reading: 100語程度の短文を読み、「レストランで注文された料理を配達するロボット機」を速読で理解し適切な単語形で空欄埋め。宿題 : 自分の家族を紹介する短文を書く

第8回 : Native 学生達の日本の祭りについての会話を聞いて順番に4つのイラストを並べ替え、要点をおさえる。再び会話を聞き・T/F問題に答えて理解を深める。ペアで会話の朗読

Target Grammar : 形容詞と副詞

第9回 : 2つの選択肢から適切な語句を選んで空所埋め、2つの短い会話を完成させ、スピーキングの朗読練習をしてから、ペアの会話発表・Reading: 100語程度の短文を読み、「ブラジルのリオカーニバル」を速読で理解し適切な単語形で空欄埋め。宿題 : 自分と友人の服装を短文で書く

第10回 : Native 学生達の野球場で観戦の会話を聞いて順番に4つのイラストを並べ替え、要点をおさえる。再び会話を聞き・T/F問題に答えて理解を深める。ペアで会話の朗読

Target Grammar : 場所と時の前置詞

第11回 : 2つの選択肢から適切な語句を選んで空所埋め、2つの短い会話を完成させ、スピーキングの朗読練習をしてから、ペアの会話発表・Reading: 100語程度の短文を読み「野球場への観戦」を速読で理解し適切な単語形で空欄埋め。宿題 : 友人と自分の一日の授業を短文で書く

第12回 : Native 学生達のお土産店での会話を聞いて順番に4つのイラストを並べ替え、要点をおさえる。再び会話を聞き・T/F問題に答えて理解を深める。ペアで会話の朗読

Target Grammar : Yes/No 疑問文とWH 疑問文

第13回 : 2つの選択肢から適切な語句を選んで空所埋め、2つの短い会話を完成させ、スピーキングの朗読練習をしてから、ペアの会話発表・Reading: 短文を読み「アメリカ先住民の魔除けお守り」を速読で理解し適切な単語形で空欄埋め。宿題 : スマートフォンについて短文で書く

第14回 : Native 学生達のカラオケでの会話を聞いて順番に4つのイラストを並べ替え、要点をおさえる。再び会話を聞き・T/F問題に答えて理解を深める。ペアで会話の朗読

Target Grammar : 他動詞と自動詞

第15回 : 2つの選択肢から適切な語句を選んで空所埋め、2つの短い会話を完成させ、スピーキングの

朗読練習をしてから、ペアの会話発表・Reading: 短文「北米とヨーロッパのカラオケ事情」 を速読で理解する、適切な単語形で空欄埋め。宿題：ある動物についての短文を書く 全体のまとめ			
定期試験			
テキスト			
English Contrast	Robert Hickling	金星堂	
参考書・参考資料等			
特になし			
学生に対する評価			
毎回の授業への取り組み	40%	期末試験	60%

授業科目名：総合英語B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 中窪 靖
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 外国語（英語））		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
様々な商用文が読解できる。そして、その形式を理解して運用できる。さらに、その知識と技能をもとに、目的や場面や状況に応じた200単語の文章が書ける。			
授業の概要			
代表的な資格試験 TOEIC L&R の問題にチャレンジし読解力を磨きながら、特にその中の Part6 や Part7 の文章を模範にして文章構成の訓練をする。			
授業計画			
第1回：人称代名詞に注目して、お知らせ文を読解する			
第2回：不定代名詞に注目して、お知らせ文を書く			
第3回：再帰代名詞に注目して、ビジネスメールを読解する			
第4回：現在完了形に注目して、ビジネスメールを書く			
第5回：主語と動詞の一致に注目して、お知らせ文を読解する			
第6回：形容詞に注目して、お知らせ文を書く			
第7回：時・期間・所属・関連の前置詞に注目して、ビジネスメールを読解する			
第8回：100単語で、お知らせ文、あるいはビジネスメールを書く			
第9回：数量形容詞に注目して、ビジネスメールを読解する			
第10回：自動詞と他動詞に注目して、ビジネスメールを書く			
第11回：形容詞の接尾辞に注目して、お知らせ文を読解する			
第12回：比較に注目して、お知らせ文を書く			
第13回：受動態に注目して、ビジネスメールを読解する			
第14回：相関接続詞に注目して、ビジネスメールを書く			
第15回：200単語で、お知らせ文、あるいはビジネスメールを書く			
定期試験は実施しない			
テキスト			
BEST PRACTICE FOR THE TOEIC L&R TEST – BASIC			
TOEIC L&R TEST への総合アプローチ ―ベーシック―			
吉塚 弘、Graham Skeritt（編著）			

成美堂
参考書・参考資料等
なし
学生に対する評価
小テスト 40%、課題の提出 30%、毎回の授業への取り組み 30%

授業科目名：異文化理解	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：
			平野（中村） 知見
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 外国語（英語））		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解		
授業のテーマ及び到達目標			
①世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解している。			
②多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義について体験的に理解している。			
③英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解している。			
授業の概要			
「異文化理解」について、グローバル化が進む日本及び諸外国の状況を前提として、教育学、社会学的な視点から、概説を行う。また実際の「異文化理解」という事象の、主体的・体験的な理解の統合を試みる。具体的には、多文化国家であるオーストラリアを主な例として、「言語」とその背景となる「歴史」「社会」「文化」などの次元とのかかわりなどについての考察や、具体的な「異文化体験」の教材及びケーススタディの紹介などを通して、実践的なスキルとしての「異文化理解」の「力」を磨き、「多文化的環境」での生活や教育の場で活かすための基礎的な能力の構築と向上とを目指す。			
授業計画			
第1回："オリエンテーション			
・授業のねらい、進め方及び受講生との対話"			
第2回：異文化を理解するとは			
第3回：文化とは何か①			
・食文化に関するワークショップ（世界の食文化）			
第4回：文化とは何か②			
・言葉に関するワークショップ「読めないお知らせ」"			
第5回：多文化国家オーストラリアの文化と歴史			
第6回：諸外国における文化多様性及び先住民の過去と現在			
第7回：変わりゆく多様性の理解			
・人種差別、階級差別、性的差別、等			
第8回：諸外国の保育・教育事情			
・ワークショップ「オーストラリアBOX」、フォトランゲージ「多文化な人的・物的環境」			

第9回：オーストラリアにおける学校の子どもたちにむけた企画・準備

第10回：企画案グループ発表

第11回：オーストラリア現地の教師との交流（オンライン）

・企画ワークショップ"

第12回：オーストラリア現地の児童との交流（オンライン）

・企画ワークショップ"

第13回：地域の多文化共生に関わる人たちとの交流

・意見交換会"

第14回：日本内外の多文化共生社会について

第15回：最終ワークショップ「多文化共生社会の実現にむけて」

定期試験は実施しない。

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

- ・『多文化社会で多様性を考えるワークブック』有田 佳代子（著，編集），志賀 玲子（著，編集），渋谷 実希（著，編集），新井 久容（著）他（2018）研究社
- ・『異文化理解入門』原沢 伊都夫（著）（2013）研究社

学生に対する評価

各回の「受講レポート」（70%）+全体の「ふりかえりレポート」（30%）に基づいて、各履修者の「到達度」を考慮し、評価を行う。

授業科目名：多文化共生論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 杉本 星子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 外国語（英語））		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 異文化理解		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 多文化共生という言葉の意味を理解し、多文化共生を自分の身近な問題として捉えられるようになる。			
2. 多文化社会化が進む日本の地域社会の実情を理解し、具体的な事例をあげて説明することができる。			
3. 多文化共生社会の実現に向けた具体的な方策を考え、提案することができる。			
授業の概要			
本講義では、2019年4月から「特定技能」という新しい在留資格で外国人労働者を受け入れる出入国管理法(入管法)が施行され、日本各地で「地域」の国際化が進むなかで、言語や宗教、生活習慣の違いを理解しあい、互いの文化的アイデンティティを尊重しあいながら、よりよい社会の実現に向けて手を携えていくにはどうしたらよいかについて考える。始めに多文化共生に関する基礎的な理論や各国の多文化共生政策について学び、その後、多文化主義なき多文化社会化が進行する日本の現状を取り上げる。それを通して、多文化共生によってつくりだされる地域社会・地域文化の新たな可能性について検討する。			
授業計画			
第1回：グローバル化と多文化共生：グローバル化、多文化共生論、異文化コミュニケーション			
第2回：多文化主義と多文化共生：移民、多文化主義、多文化政策			
第3回：「日本人」とは：人種、民族、国籍、ルーツ			
第4回：異文化コミュニケーション その1 ハビトゥスと近代国家：ハビトゥス、国民国家、モース、ブルデュー			
第5回：異文化コミュニケーション その2：ハイ・コンテクスト文化、ロー・コンテクスト文化、エドワード・ホール			
第6回：オーストラリアの多文化主義：移民国家、ホワイトネーション、アボリジナルアート			
第7回：フランスの多文化主義：共和国の理念、世俗主義、イスラーム			
第8回：アメリカの多文化主義：文化的多元主義、市民権、人種問題、ブラック・ライブス・マター			
第9回：カナダの多文化主義と日系移民：和歌山県アメリカ村、漁業と捕鯨、日系人部隊、収容所			
第10回：ブラジルの日系移民と日本の南米系住民：移民問題、教育問題			

<p>第11回：アイヌと沖縄：ウポポイ、琉球王国、マルチ・エスニック・クロス・エスニック</p> <p>第12回：日本の技能実習制度の課題：特別技能実習、日本語教育、棲み分け</p> <p>第13回：移民・難民・無国籍：国籍、難民条約、入管法</p> <p>第14回：アマルティア・センのアイデンティティの暴力：ディアスポラ、アイデンティティの複数性</p> <p>第15回：ダイバーシティと多文化共生：マイノリティとしての障がい者、LGBTQ、子どもの権利</p> <p>定期試験：授業の振り返りテスト</p>
<p>テキスト</p> <p>特定の教科書は使用せず、各回の授業内容に関連する最新の新聞記事・Web資料等を配布</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>各回の授業内容に応じ参考文献を提示する</p>
<p><学生に対する評価></p> <p>到達目標1～2については、期末の振り返りテスト<問1>の成績で評価するが、採点に当たり以下の3点を重視する。</p> <p>①授業であつかったキーワード、キーパーソンについて、しっかり理解しているか。</p> <p>②授業であつかった国々の多文化主義政策のちがいについて理解しているか。</p> <p>③日本の外国人労働者導入の制度と課題について理解しているか。</p> <p>到達目標3については、振り返りテストのなかの応用問題の記述内容で評価する</p> <p><採点配分></p> <p>平常点20%、課題の提出20%、期末振り返りテスト60%</p>

授業科目名：グローバリゼーション論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 遠藤 央
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 外国語（英語））		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解		
授業のテーマ及び到達目標			
ネイションやナショナリズムに関する重要な基本用語を理解する。西欧中心の世界史とはことなる視点からの「世界史」を理解する。長期的な視野から現代世界の問題を考察できるようになる。			
授業の概要			
大航海時代から始まる「旧世界」と「新世界」の出会い方の意味を再考する。植民地主義、帝国主義とはどのようなものであったかを知り、植民地からの脱却と国民国家成立の過程を理解し、それぞれの社会・文化の特徴を学ぶ。それとともに、「現代社会」として共有する問題を考えていく。「国民文化」の想像・創造とはいかなることか、「民族」とは何か、「民族」の境界とはどのように形成されるのかを知り、民族の共存・共生、先住民・移民、ナショナリズム、コロニアリズム、ポストコロニアリズム、シティズンシップ、多文化主義・同化主義といった問題を具体例にそくしてとりあげ、現代社会が直面しているグローバリゼーションとその将来を考察する。			
授業計画			
第1回：授業の目標を理解し、民族、エスニシティ、国民(民族)国家、コロニアリズム、ナショナリズム、ポストコロニアリズム、多文化主義、シティズンシップといった基本用語の意味と使用法を知る。			
第2回：国民(民族)国家の形成過程の歴史を理解する。			
第3回：グローバリゼーションの歴史、とくにコロンブスが「新大陸到達」をはたした一四九二年の意味を理解する。			
第4回：「民族」とは何か、その境界とはどのように決定されるのかを知る。			
第5回：前回の具体例として、各国のセンサスの内容を検討し、民族分類の多様性・恣意性を理解する。			
第6回：具体例として、マレーシア(英領マラヤ)をとりあげ、「マレー人」、「華人」、「インド人」、「オラン・アスリ」、「プミプトラ」とは誰のことか、その歴史的経緯を考察する。			
第7回：ミクロネシアを例にとり、スペイン、ドイツの支配や大日本帝国の委任統治領となったことでどのような経験をしたのかを講義する。			

第8回：前回の続きとして、戦後、国連の戦略的信託統治領となり、アメリカに統治されたことが何をもたらしたか、独立するとはどういうことか、自由連合協定とは何か、憲法を制定するとはどのような作業か、などについて学ぶ。

第9回：ミクロネシアと日本の戦後を比較し、アメリカとの関係の類似性を考える。

第10回：ハワイ、ニュージーランド、オーストラリア、パラオ、マレーシアを例として、「先住民/移民」という問題構成を理解する。

第11回：先住民の権利回復運動の内容を知る。

第12回：多文化主義と同化主義を比較し、検討する。

第13回：マルチカルチュラル・シティズンシップ、トランスナショナル・シティズンシップ、横断的市民権、公共圏などが提唱される背景を学ぶ。

第14回：多文化の共存・共生はいかにしたら可能なのかを考える。グローバリゼーションの進展とともに、逆にナショナリズムが強まってきている具体例を知る。

第15回：授業全体の復習と基本用語の再確認をおこない、質問をうけつける。

定期試験

テキスト とくに定めない。授業で配布するプリントと指示された文献を読むこと。

参考書・参考資料等

『一冊でわかる 新版 グローバリゼーション』マンフレッド・スティーガー（櫻井公人他訳）岩波書店、2010

学生に対する評価

授業への積極的な参加を評価する。毎回、授業の途中で課題を提示し、文章を書かせる。また、授業の最後にコメントを書かせ、3段階の評価を加えて次回に返却する。コメントと定期試験の評価を合わせて成績を決定する。毎回の課題、コメント（3割）と定期試験（7割）を総合して評価する。

授業科目名： 小中英語科教育法		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：矢野 智子 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 外国語（英語））		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 小学校・中学校を通した外国語教育について理解し、教員として求められる資質・能力の基礎を身に付けることができる。				
授業の概要 ・ 講義及びワークショップ、授業分析を通して小・中学校外国語科を教える教員として求められる基礎的・基本的な知識を身に付けるとともに、教材研究や授業分析を行うことを通して、基本的な指導法を身につける。				
授業計画 ＊教室英語演習は毎回行う。 第1回：オリエンテーション・授業観察 第2回：小学校・中学校の学習指導要領の基礎知識 第3回：第二言語習得と音声・文字の指導・授業観察 第4回：学習到達目標に基づいた指導計画・指導案づくり 第5回：授業体験と分析（1） 英語で行う授業 第6回：授業観察と分析（2）：ALT等とのチームティーチング 第7回：授業体験と分析（3）：ICT活用（デジタル教科書含む） 第8回：学習評価・学習指導案作成 第9回：特別支援に関わる外国語の指導・学習指導案作成 第10回：小・中・高等学校の連携における小・中学校の役割、学習指導案作成 第11回：教材研究・指導案作成・模擬授業と分析（低学年の英語教育と他教科連携） 第12回：教材研究・指導案作成・模擬授業と分析（外国語活動の指導） 第13回：教材研究・指導案作成・模擬授業と分析（小学校外国語科の指導） 第14回：教材研究・指導案作成・模擬授業と分析（中学校外国語科の指導） 第15回：まとめ 定期試験は実施しない				
テキスト 小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック（文部科学省HPよりダウンロードして印刷しておくこと）				

- ・小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語・外国語活動編 文部科学省 開隆堂
- ・中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語編 文部科学省 開隆堂
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 外国語
国立教育政策研究所 教育課程研究センター 東洋館出版
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 外国語
国立教育政策研究所 教育課程研究センター 東洋館出版

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

小学校教科書 Here We Go ! 5年・6年（光村出版）

小学校外国語活動教材 Let's Try ! 1/2（文部科学省）

中学校教科書 NEW HORIZON（1年・2年・3年）（東京書籍）

学生に対する評価

- ・発表（授業内）40%：発表内容、意見交換、授業実践、振り返り記述等から評価する。
- ・課題（授業内）30%：指導案やレポートの内容及び提出状況（期日厳守）事後の振り返り等から評価する。
- ・試験：（授業内）30%：講義での学びについて小テストを数回実施し評価する。

授業科目名： 英語科教育法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：矢野 智子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 外国語（英語））		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 中学校及び高等学校の外国語科（英語） 目標、内容、指導法について学び、英語科教育への理解を深める。			
授業の概要 ・ 中学校及び高等学校における外国語科の基本理念、目標、学習内容、指導方法に関する理論を解説する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：小学校・中学校・高等学校学習指導要領（3つの資質・能力） 第3回：英語科教員に求められる資質・能力（学習到達目標に基づく授業づくりと指導案作成含む） 第4回：異文化理解に関する指導 第5回：英語の音声的な特徴に関する指導（授業体験含む） 第6回：文字に関する指導（授業体験含む） 第7回：語彙・表現に関する指導（授業体験含む） 第8回：文法に関する指導（授業体験含む） 第9回：英語によるインプット・インタラクション 第10回：領域統合型の言語活動の指導 第11回：評価の種類と方法（テスト、評価資料） 第12回：言語活動（聞くこと・読むこと）の指導と評価（授業観察含む） 第13回：言語活動（話すこと【やり取り/発表】・書くこと）の指導と評価（授業観察含む） 第14回：生徒の特性や習熟度に応じた指導 第15回：まとめ 定期試験は実施しない			
テキスト ・ 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語編 文部科学省 開隆堂 ・ 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 外国語編 文部科学省 開隆堂			
参考書・参考資料等 ・ 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）			

- ・高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
- ・中学校教科書 NEW HORIZON（1年・2年・3年）（東京書籍）
- ・高等学校教科書All Abroad!（1年・2年・3年）（東京書籍）
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 外国語
国立教育政策研究所 教育課程研究センター 東洋館出版
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 外国語
国立教育政策研究所 教育課程研究センター 東洋館出版

学生に対する評価

- ・発表（授業内）40％：発表内容、意見交換、授業実践、振り返り記述等から評価する。
- ・課題（授業内）30％：指導案やレポートの内容及び提出状況（期日厳守）事後の振り返り等から評価する。
- ・試験：（授業内）30％：講義での学びについて小テストを数回実施し評価する。

授業科目名：英語科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：矢野 智子
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 外国語（英語））		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 講義で習得した中学校及び高等学校外国語科（英語）を指導するために必要な知識を説明することができる。			
・ 外国語科（英語）の学習指導の基礎を身に付ける。			
授業の概要			
・ 中学校・高等学校における外国語科の基本理念である言語活動の充実を柱として、目標、内容、指導法についての理論や概念を解説するとともに、中学校・高等学校の英語検定教科書を基に授業の在り方を具体的・実践的に考察する。			
第1回：オリエンテーション・教室英語（全回を通して教室英語に触れる）			
第2回：中学校・高等学校学習指導要領の目標と小中高連携			
第3回：ICT機器やデジタル教科書と教材・教具の活用			
第4回：学習評価、パフォーマンステスト、CAN・DOリスト形式の学習到達目標			
第5回：学習指導案作成のポイントⅠ（学習指導案の構成、到達目標、年間指導計画）			
第6回：学習指導案作成のポイントⅡ（目標・評価・単元構想）			
第7回：学習指導案作成のポイントⅢ（単元計画と本時の展開）			
第8回：模擬授業：言語活動（聞くこと）の指導			
第9回：模擬授業：言語活動（読むこと）の指導			
第10回：模擬授業：言語活動（話すこと【やり取り】）の指導			
第11回：模擬授業：言語活動（話すこと【発表】）の指導			
第12回：模擬授業：言語活動（書くこと）の指導			
第13回：授業分析：言語活動の充実に向けた指導			
第14回：授業分析：指導と評価の一体化を目指して			
第15回：まとめ			
定期試験は実施しない			
テキスト			
・ 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語編 文部科学省 開隆堂			
・ 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 外国語編 文部科学省 開隆堂			

参考書・参考資料等

- ・ 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
- ・ 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
- ・ 中学校教科書 NEW HORIZON（1年・2年・3年）（東京書籍）
- ・ 高等学校教科書All Abroad!（1年・2年・3年）（東京書籍）
- ・ 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 外国語
国立教育政策研究所 教育課程研究センター 東洋館出版
- ・ 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 外国語
国立教育政策研究所 教育課程研究センター 東洋館出版

学生に対する評価

- ・ 発表（授業内）40%：発表内容、意見交換、授業実践、振り返り記述等から評価する。
- ・ 課題（授業内）30%：指導案やレポートの内容及び提出状況（期日厳守）事後の振り返り等から評価する。
- ・ 試験：（授業内）30%：講義での学びについて小テストを数回実施し評価する。

授業科目名：英語科教育法Ⅲ	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：矢野 智子
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 外国語（英語））		
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 中学校及び高等学校における外国語科（英語）の基本的な学習指導案を作成するとともに、授業力・英語力の基礎を身に付ける。			
授業の概要			
・ 中学校及び高等学校における外国語科（英語）の基本的な学習指導案を作成し、模擬授業を行うことを通して、授業づくりの演習を行う。			
＊毎回、教室英語に触れる			
第1回：オリエンテーション			
第2回：コミュニケーション能力と外国語科の目標（小学校、中学校、高等学校）			
第3回：言語活動（技能統合の指導）の指導（授業観察含む）			
第4回：教室英語とTeacher Talk（授業体験含む）			
第5回：ティーム・ティーチングとICT活用（授業体験含む）			
第6回：学習到達目標に基づく授業づくりのポイント			
第7回：学習指導案作成と教材研究（1）（単元計画、本時の展開）			
第8回：学習指導案作成と教材研究（2）（指導と評価の一体化）			
第9回：学習指導案作成と教材研究（3）（Teacher Talk、インタラクション）			
第10回：模擬授業と分析（1）（デジタル教科書、ICT活用）			
第11回：模擬授業と分析（2）（英語で行う授業・インプットとインタラクション）			
第12回：模擬授業と分析（3）（ALT等とのティーム・ティーチング）			
第13回：模擬授業と分析（4）（技能統合の指導）			
第14回：模擬授業と分析（5）（指導と評価の一体化）			
第15回：まとめ			
定期試験は実施しない			
テキスト			
・ 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語編 文部科学省 開隆堂			
・ 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 外国語編 文部科学省 開隆堂			
参考書・参考資料等			
・ 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）			

- ・高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
- ・中学校教科書 NEW HORIZON（1年・2年・3年）（東京書籍）
- ・高等学校教科書All Abroad!（1年・2年・3年）（東京書籍）
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 外国語
国立教育政策研究所 教育課程研究センター 東洋館出版
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 外国語
国立教育政策研究所 教育課程研究センター 東洋館出版

学生に対する評価

- ・発表（授業内）50%：発表内容(模擬授業含)、意見交換、授業実践、振り返り記述等から評価する。
- ・課題（授業内）50%：学習指導案の内容及び提出状況、事後の振り返り等から評価する。

授業科目名：日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大西 貴之
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標			
本講義は日本国憲法における基本的人権論及び統治機構論について学びます。 本講義は、 （１）法（特に憲法）についての基本的な考え方や原理を理解すること、 （２）専門的な用語や言い回しについて正確に説明できるようになること、 （３）具体的な問題に対して講義で学んだことを応用すること を目指します。			
授業の概要			
本講義は日本国憲法の基本的な考え方や原理について概説します。憲法とは国のあり方の基本を定める最高法規であり、その規定には抽象的で曖昧なものが多くあります。その意味内容は、常に各々の時代や文化のなかを生きる人々の解釈を通して形づくられてきたものです。過去にどのような社会問題を前にして憲法がどのように解釈されてきたかを学び知ることは、現在を生きる私たちが目の前の様々な問題を前にしてどのように憲法を解釈すべきかを見出すきっかけになるはずです。そこで本講義では、過去の判例や現在生じている問題を素材にしながら、具体的局面において基本的人権やその他の憲法上の原理や制度がどのような意味を持つのかについて検討していきます。 また講義では、専門的な用語や概念が用いられることがありますが、イメージをつかみやすくするために平易な言葉や身近な具体例をできるだけ用いるよう心がけます。			
授業計画			
第1回：はじめに—ガイダンス、法とは何か、憲法における基本的な考え方			
第2回：日本国憲法の基礎—日本国憲法の基本的特質、基本的人権の体系、人権制約の根拠			
第3回：信教の自由—信教の自由とその限界、政教分離原則			
第4回：表現の自由—「知る権利」、表現の自由の「価値」、表現を規制することの意味			
第5回：職業選択の自由—営業の自由、営業規制の様々な類型			
第6回：生存権—生存権の法的性格、生存権を具体化する様々な立法			
第7回：教育を受ける権利—学習権と国の責務、教育権の所在			
第8回：プライバシー権—憲法13条の意義、プライバシーの定義、情報プライバシー権			
第9回：法の下での平等—平等の観念、性差別をめぐる問題			

第10回：参政権—選挙権の法的性格、選挙制度

第11回：国会—国会の地位、国会と議院の権能

第12回：内閣—行政権、議院内閣制

第13回：裁判所—裁判所の構成と権能

第14回：地方自治—地方自治の本旨、地方公共団体の機関、条例の制定

第15回：まとめ—憲法の歴史、これまでの振り返り

定期試験

テキスト

『目で見える憲法 〔第5版〕』初宿正典、大沢秀介、高橋正俊、常本照樹、高井裕之（有斐閣）

参考書・参考資料等

『いちばんやさしい憲法入門 〔第5版〕』初宿正典、高橋正俊、米沢広一、棟居快行（有斐閣）

『憲法入門』市川正人・倉田原志編（法律文化社）

『グラフィック憲法入門 〔補訂版〕』毛利透（新世社）

学生に対する評価

定期試験（60%）、学期途中での知識確認のためのテスト（20%）、平常点（課題提出状況等）（20%）

授業科目名：生涯スポーツ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 岡本 浄実
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育		
授業のテーマ及び到達目標			
1. さまざまなスポーツをメンバーと協力し実施することができる。 2. 素材（教材）を理解し、ウォーミングアップ計画を立案することができる。 3. 体力測定結果に基づき、自分に合った運動（身体活動）を計画・実践することができる。 4. 身体活動の重要性を説明することができる。			
授業の概要			
近年、現代におけるめざましい情報技術の発達や自動化に伴い、現代人の身体活動量は著しく減少している。身体活動量の低下は、体力低下・肥満・生活習慣病など身体を健康を悪化させるだけでなく、他者とのコミュニケーションの機会を失わせ、意欲低下やうつなど、こころの健康にも悪影響を及ぼすことも注目されている。 本授業では、様々なスポーツ活動を通じ、身体活動の楽しさを体験する。ウォーミングアップ計画では、素材（教材）を理解し、メンバーの関りを増やすことができる実践を行う。また、生涯スポーツの理論的な学習から、健康増進のための身体活動の重要性を理解することを目的としている。			
授業計画			
第1回：授業の進め方、諸注意			
第2回：みんなでスポーツ① バスケットボールまたはバレーボールの選択			
第3回：体力を知る① 体力測定			
第4回：体力を知る② 体力要素と運動の方法			
第5回：様々なトレーニング			
第6回：スポーツ① バレーボール① リーグ戦			
第7回：スポーツ② バレーボール② トーナメント戦			
第8回：スポーツ③ バドミントン① ダブルス			
第9回：スポーツ④ バドミントン② シングルス			
第10回：スポーツ⑤ バスケットボールまたはフットサル① リーグ戦			
第11回：スポーツ⑥ バスケットボールまたはフットサル① トーナメント戦			
第12回：スポーツ⑦ 卓球① ダブルス			
第13回：スポーツ⑧ 卓球② シングルス			

第14回：スポーツ⑨ ニューススポーツ

第15回：みんなでスポーツ② バスケットボールまたはバレーボール

定期試験（レポート試験）

テキスト

使用しない

参考書・参考資料等

適宜、必要に応じて参考資料を配付

学生に対する評価

試験レポート(40%)、平常点評価（参加点・予習復習課題・ウォーミングアップ計画）（60%）

授業科目名：スポーツ 実技	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 岡本浄実
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>仲間と楽しく身体を動かし、運動・スポーツを介したコミュニケーション能力を向上させ、自身の生活をより活気あるものにしていこうとする態度を養うことを主目的としている。具体的には以下の目標を掲げている。</p> <p>1. 運動・スポーツや体力の重要性を理解し、説明することができる。</p> <p>2. 「遊び」としてのスポーツに夢中になって取り組むこと（勝つ・チームプレー・各種目の技術など）ができるようになる。</p> <p>3. 鬼ごっこなどの運動遊び・手遊びを企画し実践することができる。</p>			
授業の概要			
<p>高校までと異なり、大学生活や卒後の社会生活ではライフスタイルが大きく変化する。充実した学生生活や今後の豊かな人生を送るため心身を保つとともに心身の健康増進を図ることが必要である。そこで本授業では、運動・スポーツを仲間と楽しく行う活動を通して、実生活における運動・スポーツや体力の重要性を理解するとともにその実施方法について具体的に学び実践する。また、広い意味での「遊び」としてのスポーツに夢中になって取り組むことできる環境について考え取り組む機会とする。</p>			
授業計画			
第 1 回：オリエンテーション 授業の進め方等			
第 2 回：連続実技【種目 1：バレーボール】①基礎練習			
第 3 回：連続実技【種目 1：バレーボール】②基礎練習の応用			
第 4 回：連続実技【種目 1：バレーボール】③ゲーム（戦術）			
第 5 回：連続実技【種目 1：バレーボール】④ゲーム（ルールの工夫）			
第 6 回：単発実技① フットサル			
第 7 回：連続実技【種目 2：バドミントン】①基礎練習			
第 8 回：連続実技【種目 2：バドミントン】②基礎練習の応用			
第 9 回：連続実技【種目 2：バドミントン】③ゲーム（戦術）			
第 1 0 回：連続実技【種目 2：バドミントン】④ゲーム（ルールの工夫）			
第 1 1 回：単発実技② バスケットボール			
第 1 2 回：連続実技【種目 3：卓球】①基礎練習			

第13回：連続実技【種目3：卓球】②基礎練習の応用

第14回：連続実技【種目3：卓球】③ゲーム（戦術）

第15回：連続実技【種目3：卓球】④ゲーム（ルールの工夫）　まとめ

定期試験は実施しない。

テキスト

使用しない

参考書・参考資料等

適宜、必要に応じて参考資料を配付

学生に対する評価

平常点（活動記録：60％）、予習・復習学習（40％）

授業科目名：健康科学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 岡本浄実
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. からだのしくみを学び、生活習慣病のメカニズムを理解することができる。 2. 健康的な生活行動を実践することができるようになる。 3. 健康に関する統計調査結果には、様々な社会背景があることを理解し、関心が持てるようになる。 4. ライフスタイルの変化における健康を理解し、健康的な生活行動を提案できるようになる。 			
<p>授業の概要</p> <p>健康に関する統計調査などの結果から現代社会の健康課題について考える。自身の健康管理や家族の健康管理のあり方、ライフスタイルの変化における健康支援について解説する。また、健康的な生活行動を学び実践し、自分自身の生命・生活を健康という視点から見直し、各専門領域との関わりを考える機会とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第 1 回：授業の進め方 健康観の変遷</p> <p>第 2 回：体のしくみ(1) よく耳にする健康に関する用語</p> <p>第 3 回：生活習慣(1) 日本の疾病構造</p> <p>第 4 回：体のしくみ(2) 動作のしくみから理解する</p> <p>第 5 回：体のしくみ(3) 恒常性の働き</p> <p>第 6 回：体のしくみ(4) 免疫系の働き</p> <p>第 7 回：体のしくみ(5) 応急処置・感染症の予防</p> <p>第 8 回：生活習慣(2) 健康的な食行動</p> <p>第 9 回：生活習慣(3) 健康的な運動行動</p> <p>第 10 回：生活習慣(4) 健康的な休養行動</p> <p>第 11 回：ライフスタイルの変化と健康(1) こども</p> <p>第 12 回：ライフスタイルの変化と健康(2) 成人</p> <p>第 13 回：ライフスタイルの変化と健康(3) 障がい</p> <p>第 14 回：ライフスタイルの変化と健康(4) 高齢者</p> <p>第 15 回：ライフスタイルの変化と健康(5) 災害時・防災</p>			

定期試験（レポート）
テキスト 使用しない
参考書・参考資料等 「身体のおくみとはたらき～棚惜しく学ぶ解剖学～」増田敦子、サイオ出版、2015 「あなたの人生をえる睡眠の法則」菅沼洋平、自由国民社、2013
学生に対する評価 試験レポート(40%)、コメントシート：予習・復習・気づき(60%)、

授業科目名：英語コミュニケーションⅠ	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：1 単位	担当教員名：陸 君（山崎 君子）
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・ 外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
教員免許を取得する為に、試験で求められる能力を磨き、15回の授業終了時に、基本的な文法知識を固め、易しいレベルの英単語や構文を身につけて、英語を聞いたり、読んだり、話したり、書いたりすることが出来る。将来社会で求められる英語力を身につけること、英語を教えられるスキルも身につけることが到達目標である。			
授業の概要			
基本的な文法事項を、色々なタスク（活動）を通して学び、初級レベルの英単語や構文を使い、英語に苦手意識を持っている人であっても無理なく学習が進めることが出来る。国際的スポーツ用品メーカーの日本支社へ転勤してきた2人のアメリカ人が、日本の同僚と会社の内外で様々なことを体験する様子が 1 5 ユニット渡って書かれている。彼らの物語を読み進めながら、英語を聞いたり、読んだり、話したり、書いたりする活動を通して、英語の力を伸ばす。			
授業計画			
第1回：授業の紹介、学生同士の自己紹介 1 分、英検準 2 級聞き取り、第 1， 2 部のレベル診断テストを行う			
第2回：Unit 1 Welcome to Japan（動詞の現在形）			
第3回：この教科書の登場人物について基本的な情報を理解しましょう（Listening練習） Be動詞と一般動詞の現在形を使った英文に慣れましょう(文法Points とCheckで復習、練習) 英語で自己紹介出来るようになりましょう。（ペアの練習後 4 人グループの口頭発表）			
第4回：Unit 2 That Sounds Like Fun（代名詞）			
第5回：Kateの同僚のMikiについて、基本情報を理解しましょう（Listening練習） 代名詞を使った英文に慣れましょう（文法Points とCheckで復習、練習） 自分が住んでいる場所について、英語で説明出来るようになりましょう（ペアの練習後 4 人グループの口頭発表）			
第6回：Unit 3 We Leave on Friday Morning（時を表す前置詞）			
第7回：同僚のHiroについて、基本情報を理解しましょう（Listening練習） 時を表す前置詞を使った英文に慣れましょう 休日の過ごし方について、英語で説明出来るようになりましょう			
第8回：Unit 4 You Know a Lot About Trains（基本5文型）			

第9回：Billと Hiroの出張中の出来事について、基本的な情報を理解しましょう（Listening練習）

英語の基本5文型を理解しましょう

自分の持ち物について、英語で説明出来るようになりましょう

第10回：unit 5 I Didn't Want to Leave（動詞の過去型）

第11回：Hiroと Billの出張の感想について、基本的な情報を理解しましょう（Listening練習）

過去型を使った英文に慣れましょう

自分が毎日行う習慣について、英語で説明出来るようになりましょう

第12回：Unit 6 You're Working Late（進行形）

第13回：Hiroのオーストラリア出張準備について、基本的な情報を理解しましょう（Listening練習）

進行形を使った英文に慣れましょう

過去と現在における自分の変化を英語で説明出来るようになりましょう

第14回：Unit 1～unit 6 全体の復習

第15回：コミュニケーション力が向上するコツを学生達と一緒に総復習する。一人ずつの口頭発表テストと英単語レベルの再診断も実施する。

定期試験は実施しない。

テキスト

English First Basic（Kinseido）2014 Robert Hicklin、Misato Usukura

参考書・参考資料等

聞いて覚える英会話お決まり表現160（浦島 久、クライド・ダブンプート）マクミランランゲージハウス）

英検準2級総合対策教本（旺文社編）旺文社

学生に対する評価

1課ごとの英単語小テスト、ペアでの会話発表（40%）

期末の個人での英語口頭発表3分（60%）

授業科目名：英語コミュニケーションⅡ		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 陸 君（山崎 君子）
				担当形態： 単独
科 目		教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・ 外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標				
教員免許を取得する為に、試験で求められる能力を磨き、15回の授業終了時に、基本的な文法知識を固め、易しいレベルの英単語や構文を身につけて、英語を聞いたり、読んだり、話したり、書いたりすることが出来る。将来社会で求められる英語力を身につけること、英語を教えられるスキルも身につけることが到達目標である。				
授業の概要				
基本的な文法事項を、色々なタスク（活動）を通して学び、初級レベルの英単語や構文を使い、英語に苦手意識を持っている人であっても無理なく学習を進めることが出来る。国際的スポーツ用品メーカーの日本支社へ転勤してきた2人のアメリカ人が、日本の同僚と会社の内外で様々なことを体験する様子が15ユニット渡って書かれている。彼らの物語を読み進めながら、英語を聞いたり、読んだり、話したり、書いたりする活動を通して、英語の力を伸ばす。				
授業計画				
第1回：授業の紹介、英文法レベルの診断テストを受け、各自のレベルを知った上で課外学習を行う指示する。				
第2回：Unit 7 I ‘m Sure He’ ll Understand（未来形）				
第3回：未来形を使った英文に慣れましょう				
Will と be going to の細かいニュアンスの違いを覚えましょう				
自分の未来の目標や夢について、英語で自己紹介出来るようになりましょう。				
第4回：Unit 8 I’ ll Remember That（助動詞）				
第5回：Hiroの出張前の準備について、基本情報を理解しましょう（Listening練習）				
いろいろな助動詞を使った英文に慣れましょう				
今晚や5年後の予定について、英語で説明出来るようになりましょう				
第6回：Unit 9 Hiro Forgot（不定詞・動名詞）				
第7回：出張中のヒロから連絡について、基本的な情報を理解しましょう（Listening練習）				
To 不定詞・動名詞を使った英文に慣れましょう				
友人が好きなこと、嫌いなことを英語で説明出来るようになりましょう				
第8回：Unit 10 How Have You Been?（現在完了）				
第9回：出張から帰って来たHiroの状況について、基本的な情報を理解しましょう（Listening練習）				

現在完了型を含んだ英文に慣れましょう

自分がこれまでにしてきたことを、英語で説明出来るようになりましょう

第10回：unit 11 While They' re Here (接続詞)

第11回：シドニー支社の2人とBill達がしたことについて、情報を理解しましょう (Listening練習)

接続詞を含んだ英文に慣れましょう

様々な場面で自分の感情を英語で説明出来るようになりましょう

第12回：Unit 12 How Was Tennis? (進行形)

第13回：Kate とMikiが接待でテニスをした時の様子について、情報を理解しましょう (Listening練習)

比較表現を含んだ英文に慣れましょう

自分の身近な人との比較を、英語で説明出来るようになりましょう

第14回：Unit7～unit 12 全体の復習

第15回：コミュニケーション力が向上するコツを学生達と一緒に総復習する。一人ずつの口頭発表テストと英文法レベルの再診断も実施する。

定期試験は実施しない。

テキスト

English First Basic (Kinseido) 2014 Robert Hickling、Misato Usukura

参考書・参考資料等

聞いて覚える英会話お決まり表現160(浦島 久、クライド・ダブンプート)マクミランランゲージハウス)

英検準2級総合対策教本(旺文社編)旺文社

学生に対する評価

1課ごとの英単語小テスト、ペアでの会話発表(40%)

期末：学生個人により英語口頭発表5分(60%)

授業科目名：数理・データサイエンス演習		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 2単位		担当教員名： 枝 富喜夫	
						担当形態： 単独	
科 目		教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は 情報機器 の操作					
授業のテーマ及び到達目標							
インターネットを利用した情報収集と情報伝達、ビジネススキルとして基本的な文書作成編集、データの集計分析の活用能力向上を目指す。							
また、単に情報機器の操作能力向上のみでなく、情報モラルとセキュリティの意識を高め、安全で正しい操作技術力を身に着ける。							
到達目標							
(1) 学内でのネットワーク環境を利用して、ファイル操作やフォルダ管理ができるようになる。							
(2) メールやユニバーサルパスポートからの配布データと提出やネットワークドライブの活用ができるようになる。							
(3) タイピングスキルの向上とWordを利用して完成度の高いレポートの作成や画像や図形を含む表現力の豊かな文書が作成できるようになる。							
(4) Excelの基本機能を習得し、集計表やグラフの作成、データベース機能の操作を身に付けることができる。							
授業の概要							
高校での「情報」科目の開講により、パソコンに関して基礎レベルでの操作習得に役立っているが、その内容やスキルは様々なのが現状である。大学では、さらに使いこなすための知識とスキルの基礎を習得し、授業や生活で生かせるようにこの科目が設定されている。							
この授業の履修により、学内のネットワーク環境やインターネットの有効活用、パソコンの利用によるWord、Excelの操作スキル向上に加え、数理・データサイエンスの活用における最も身近なツールの一つであるExcelを用いた、データを分析する上で必要な関数の活用、データベースの分析手法などを習得する。							
演習内容は実際に他の授業で活用するためのレポート作成やデータの集計、分析機能などを視野に入れて基本的な知識と操作スキルの向上を目指す。							
授業計画							
第1回：ガイダンス・パソコンの一般知識							
パソコンの基本操作(Windows10)を習得する・文字の入力・タイピング							
第2回：インターネット・Word入門							

<p>インターネットの閲覧と検索・情報モラルとセキュリティ Webメール、・タイピング、印刷設定、表の作成</p>
<p>第3回：Word応用(1) 表の編集、いろんな書式の設定</p>
<p>第4回：Word応用(2) 表現力のアップ（オンライン画像、ワードアート、図の挿入等）</p>
<p>第5回：Word応用(3) 長文作成（レポート）の編集機能 アプリケーション間データの活用</p>
<p>第6回：Word応用(4) Word演習問題（まとめ）</p>
<p>第7回：Word応用(5) Word総合課題（授業内課題提出）</p>
<p>第8回：Excel入門(1) Excelの基礎知識と基本操作 表の作成と各種計算機能の練習</p>
<p>第9回：Excel入門(2) 表の編集と書式設定 基本的な関数の利用・印刷操作</p>
<p>第10回：Excel応用(1) グラフの作成と編集</p>
<p>第11回：Excel応用(2) 絶対参照の設定や様々な関数を使った活用例</p>
<p>第12回：Excel応用(3) 高度な関数の活用例</p>
<p>第13回：Excel応用(4) データベース機能、条件付き書式</p>
<p>第14回：Excel応用(5) Excel演習問題（まとめ）</p>
<p>第15回：Excel応用(6) Excel総合課題（授業内課題提出）および解説</p>
<p>定期試験は実施しない</p>
<p>テキスト 30時間アカデミック Office2019 Windows 10対応（杉本くみ子、大澤栄子）実教出版</p>
<p>参考書・参考資料等 特に使用しない</p>

学生に対する評価

到達目標（１）と（２）は、毎回、授業内での編集データのパソコン内の保存や整理、ユニバーサルパスポートからのデータ取り込みやユニバーサルパスポートへの提出操作を通じて理解度を確認する。

（３）と（４）は、毎回の授業内での演習データの完成度とWord、Excelの授業外課題、及び授業内課題の完成度で評価する。

種別割合 平常点60% 授業内課題40%

授業科目名：教育学概論	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：浅田 瞳
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標			
1) 諸外国における教育の変遷や原理の違いについて説明できる			
2) 教育の発展過程について、専門的な知識をもとに説明できる。			
3) 幼児・児童・生徒に対する教育観・保育観について、説明できる。			
授業の概要			
洋の東西を問わず、教育に求められる役割はますます肥大化し、教師の役割も同様になりつつある。本講義では、教育の基本的な考え方やしくみを社会や歴史との関係をふまえながら学習し、現在の学校を取り巻く課題や学校そのものを形成する要素について項目別に学ぶ。			
人間の発達や現代社会と教育との関係をもとに、教育で大切なことは何か、さまざまな資料や記事をもとに考察する。			
授業計画			
第1回：はじめに 教育の本質：なぜ子どもは教育を受ける権利をもつのか			
第2回：西洋の教育思想と人物について フレーベル、ジョン・ロック、ルソー			
第3回：日本の教育思想と人物について			
第4回：近代教育制度の成立と展開 分岐型・複線型・単線型学校教育			
第5回：学校・家庭・子どもの関係を考える PTAとコミュニティスクール			
第6回：現代における教育課題と学校経営 カリキュラム・マネジメント			
第7回：学習指導要領・幼稚園教育要領の内容と変遷 開放性原理			
第8回：学力論 効果のある学校教育とは何か			
第9回：教育・学習方法 アクティブラーニングと反転学習			
第10回：幼児期のしつけと教育について 周囲の環境と社会化について			
第11回：児童期の教育について 集団と人間関係			
第12回：青年期の教育について アイデンティティの獲得と親からの精神的自立について			
第13回：家庭教育の重要性			
第14回：現代の子どもを取り巻く課題			
第15回：まとめにかえて 子どもたちに必要な教育とは何か			
定期試験			
テキスト			

安彦忠彦ほか『新版よくわかる教育学原論』ミネルヴァ書房
参考書・参考資料等
授業中に適宜資料を掲示
学生に対する評価
定期試験（50％）、毎回の授業後に提出する小レポート（50％）

授業科目名：教職概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 浅田 瞳、澤 達大
			担当形態： 複数・オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
1）教職の重要性、職務内容、その専門性について理解する。 2）教職に関する制度、服務規程、関係法規、教員の 資質・能力について理解する。 3）自己の理想の教師像を確立し、実現のための課題を明確にする。			
授業の概要			
教職は、日々成長する子どもの教育に携わり、子どもの可能性や個性の伸長を図る創造的な仕事であり、これを担う教師は、子どもの人格形成に大きな影響を及ぼすという崇高な使命を負った存在である。教職の意義、教員の役割と使命、職務内容、教育制度や関係法規、服務規程等について認識を深めることを通して、教職に就く心構えやその責任について学ぶと同時に、教職を巡る課題、教師に求められる資質や能力を明らかにし、教職を志望する学生が、自身の進路選択とキャリア形成に関する課題意識をもてるようにする。			
授業計画			
第1回：はじめに 「教職」とは何か（担当：浅田瞳・澤達大）			
第2回：教育の目的と教師の役割 教職の役割と意義（担当：澤達大）			
第3回：教職の今日的課題 教師を取り巻く社会の現状（担当：浅田瞳）			
第4回：教師に求められる資質・能力① 教職に対する愛着、誇り、一体感（担当：浅田瞳）			
第5回：教師に求められる資質・能力② 地球的視野に立つ、時代の変化を生きる、教員の職務から必然に求められる能力（担当：澤達大）			
第6回：教員養成の制度 師範学校、開放性の原理（担当：浅田瞳）			
第7回：教員の採用と研修 免許更新制、初任者研修（担当：澤達大）			
第8回：教員の職務と専門性 教科担任、学級担任、校務分掌（担当：澤達大）			
第9回：教員の地位と身分 教員の服務上及び身分上の義務（担当：浅田瞳）			
第10回：教師に求められる専門的力量① 学習と教授、授業計画と準備、実践と評価（担当：浅田瞳）			
第11回：教師に求められる専門的力量② 生徒指導の3機能、進路指導、教育相談（担当：澤達大）			
第12回：教師に求められる専門的力量③ 学級担任と学級経営（担当：澤達大）			
第13回：教師に求められる専門的力量④ チーム学校、学校運営協議会（担当：澤達大）			

第14回：私の目指す教師像 自分の目指す教師像を考える（担当：浅田瞳）

第15回：まとめにかえて 教員養成で培う資質・能力とは何か（担当：浅田瞳）

定期試験

テキスト

『新しい教職教育講座 教職教育編2 教職論』原清治他、ミネルヴァ書房

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を提示

学生に対する評価

定期試験（50%）、毎回の授業後に提出する小レポート（50%）

授業科目名：教育社会学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 浅田 瞳 担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標			
1) 教育を取り巻く社会との状況を理解し、教育の意義・原理・構造について説明できる 2) 学校と地域との連携・協働の事例を取り出し、その必要性について説明できる 3) 学校の危機管理や安全管理を理解し、その必要性について説明できる			
授業の概要			
学校や教育政策は、社会変動や活動地域によってその特色は大きく異なり、それらの影響を強く受ける。社会の変化によって公教育は成立し、さまざまな教育法規が定められた。今後も社会は変化し、先行きの見えない時代が続くと考えられる。そうした社会の現状から、教育において変化する部分(流行)と普遍的に求められる視点(不易)は何なのかについて考えるのがこの授業の目的である。			
授業計画			
第1回：はじめに 教育社会学という領域			
第2回：日本における教育制度の変遷			
第3回：公教育と教育法規：教育基本法、学校教育法、学校教育施行規則等			
第4回：公教育の原理および理念：なぜ公教育は授業料を徴収しないのか			
第5回：学校を取り巻く変化および子どもの生活の変化①：特別な支援を必要とする幼児児童生徒への指導			
第6回：学校を取り巻く変化および子どもの生活の変化②：いじめ問題と現代的特質			
第7回：学校を取り巻く変化および子どもの生活の変化③：子どもたちの人間関係をめぐる新しい課題 ネットいじめ			
第8回：教育制度の諸課題：教育行政の視点から			
第9回：子どもの貧困対策と教育支援：学校外の関係者・関係機関との連携・協働			
第10回：望ましい学校経営・学級経営のあり方：PDCAサイクルをどう学校・学級経営に生かすか			
第11回：学校と地域との連携・協働：コミュニティスクールにみられる開かれた学校づくり			
第12回：近年の教育政策の動向：チーム学校という考え方			
第13回：学校安全と防災の課題を考える：東日本大震災と亀岡市の児童交通死亡事故から			
第14回：諸外国における教育改革の動向：イギリス、アメリカ、フィンランド			
第15回：まとめにかえて 学校に必要な教育社会学的な視点とは何か			

定期試験
テキスト 原清治・山内乾史『新しい教職教育講座 教職教育編③教育社会学』ミネルヴァ書房
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を提示
学生に対する評価 定期試験（50％）、毎回の授業後に提出する小レポート（50％）

授業科目名：同和教育論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：
			澤田 清人
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標			
1 教員希望者として、同和問題への認識を深めることができる。			
2 「同和」教育の実践課題に対して主体的に行動ができるような素養を身につける。			
授業の概要			
人権問題の中における同和問題の位置づけと教育の中における同和教育の位置づけを始めに解説する。また、同和教育の歴史的な経過、関連する法規、学校での全体計画等を概観し、同和教育の具体的な実践例を通して現状と課題について深く考察する。			
授業計画			
第1回：人権教育の中の同和教育；人権教育の中に占める同和教育の位置とその役割について学ぶ。			
第2回：部落の歴史を学ぶ；近代～現在の部落差別の実態を具体的に学び地域との連携を考える。			
第3回：同和問題の関連法規「部落差別解消推進法」等の基礎的知識を身に付ける。			
第4回：被差別部落における生活環境改善の経過と現状			
第5回：同和地区児童・生徒の教育実態とその支援 ①学力保障			
第6回：同和地区児童・生徒の教育実態とその支援 ②教育課題			
第7回：学校教育目標・経営方針と同和教育；人権教育・同和教育の年間全体計画から事例を学ぶ。			
第8回：同和教育の実践例①；人権劇「峠」・「スダチの苗木」を通して同和教育を考える。			
第9回：同和教育の実践例②：全校人権学習における同和教育の有効性を学校経営面から考える。			
第10回：同和教育と道德教育；同和教育と道德教育との同異点を、教育制度の観点から考える。			
第11回：同和教育における教材活用①；読書、ブックトーク、資料交流などによる授業手法を学ぶ。			
第12回：同和教育における教材活用②；同和问题学習の教材を集めるための基本理念を学ぶ。			
第13回：模擬授業；同和教育に関する模擬授業（クラス規模又は全校規模）を行い相互評価する。			
第14回：同和教育の課題；教育改革や人権教育的側面からディスカッションし考察を深める。			
第15回：まとめ；15回の学習を振り返り、本授業の目的への到達度を確かめる			
定期試験：実施しない			
テキスト			
中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） その他、授業中に適宜資料を配布する。			
参考書・参考資料等			
「教育不平等」 外川正明 解放出版社			

「公立学校の挑戦」志水宏吉 岩波ブックレット61

「これでなっとく！部落の歴史」上杉聰 解放出版社

「これでなっとく！部落の歴史」続 上杉聰 解放出版社

学生に対する評価

到達目標1（85%） 課題レポートとCP（コミュニケーション・ペーパー）
指導案と模擬授業の内容

到達目標2（15%） 毎時の授業参加への積極性とコミュニケーション・ペーパーの内容
授業中と、特に模擬授業での発言や評価の内容

これらを総合的に判断して評価する。

授業科目名：心身の発達と学習過程	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田爪 宏二
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する代表的理論及び教育における発達理解の意義を理解する。			
2. 各時期における発達の諸側面（運動、認知、言語、社会性等）の内容や特徴を理解する。			
3. 様々な学習の形態や概念及びその過程に関する基礎的な理論を理解する。			
4. 幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について理解する。			
5. 幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える支援について理解する。			
授業の概要			
心理学の視点から、幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程に関する代表的な理論や研究成果について、学校教育（幼児教育・保育を含む）との関連を中心に論じる。その上で、主体的な学習を支える上で教師に求められる知見と、それを踏まえた教育実践のあり方について考察する。			
授業計画			
第1回：教育心理学とは			
第2回：発達の基礎理論			
第3回：心身の発達(1)乳幼児期			
第4回：心身の発達(2)児童期			
第5回：心身の発達(3)青年期以降			
第6回：学びのメカニズム(1)学習と知識獲得			
第7回：学びのメカニズム(2)認知的情報処理と記憶			
第8回：学びのメカニズム(3)動機づけと学習			
第9回：教育心理学と教育実践(1)認知発達と学習支援			
第10回：教育心理学と教育実践(2)学級集団と学習支援			
第11回：教育心理学と教育実践(3)個性・個人差と学習支援			
第12回：教育心理学と教育実践(4)教育評価			
第13回：特別な支援と教育心理学			

第14回：子どもの情緒・適応の理解と心理的支援

第15回：学校教育をとりまく諸問題と教育心理学

定期試験

テキスト

教職エクササイズ 教育心理学 田爪宏二編 ミネルヴァ書房

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

筆記試験（60％）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（30％）、授業への参加態度及び積極性（10％）

授業科目名：発達心理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 西元（山本） 直美
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標			
人間を理解するための多様な視点のひとつとして、発達心理学の知見を習得し、その知識を教育現場や発達臨床の現場における発達支援に活かすことを目指す。			
授業の概要			
人間は受胎から一生を終えるまで、加齢に伴って量的な変化および質的な変化があり、その変化は乳幼児期や児童期だけでなく高齢期まで見受けられるものである。また、生涯続くその変化には、人的環境および社会的環境の影響が考えられる。そこで、人間の発達(変化)の過程を時系列的に概観しながら、発達のメカニズムについて考察していく。			
授業計画			
第1回：発達心理学とは/発達心理学の研究法			
第2回：発達段階・発達課題			
第3回：発達を規定するもの（遺伝と環境）（1）：発達を規定する要因			
第4回：発達を規定するもの（遺伝と環境）（2）：発達における環境の意味			
第5回：胎児期・新生児期			
第6回：認知発達			
第7回：感情の発達/個性の発達			
第8回：自己の発達・他者理解の発達			
第9回：人間関係の発達(愛着の発達)			
第10回：言語・コミュニケーションの発達			
第11回：思考の発達			
第12回：青年期から老年期の発達			
第13回：さまざまな発達（1）：さまざまな障がいについて			
第14回：さまざまな発達（2）：発達障がい及びその支援			
第15回：まとめ			
定期試験			
テキスト			
授業中に適宜資料を配布する			
参考書・参考資料等			

公認心理師ベーシック講座 発達心理学（水野里恵 著、講談社）

学生に対する評価

毎回の提出課題および定期試験から行う。

提出課題 45% 筆記試験 55%

授業科目名：特別支援 教育概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 西山 剛司
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標			
特別なニーズを持つ児童生徒の特性及び心身の発達を理解し、概要を述べることができる。 特別な教育的ニーズのある児童生徒の学習上又は生活上の困難とそれへの支援を理解し、概要を述べることができる。			
授業の概要			
人は元々多様であり、その多様な学びの道筋に対応する基本的な考え方を学ぶ。 様々な要因から特別な教育的ニーズがあり配慮や支援を要する生徒の理解を踏まえた適切な指導や支援の基本を学ぶ。 インクルージョンの理念を踏まえ、特別支援教育の基本と現在の到達点及び課題を学ぶ。			
授業計画			
第1回：「障害」とは何だろう 第2回：特別なニーズのある子どもたちの理解と支援 発達障害・「障害」以外の特別なニーズ 第3回：特別なニーズのある子どもたちの理解と支援 視覚・聴覚・肢体・知的・病弱・言語の障害 第4回：特別支援教育の歴史と制度 第5回：幼稚園・保育所での多様な子どもたちの理解と支援 第6回：通常学級での多様な子どもたちの理解と支援 第7回：通級での指導・特別支援学級での教育・「自立活動」の意義と支援・指導方法 第8回：特別支援学校での教育／これからの特別支援教育 定期試験（レポート試験とする）			
テキスト			
「これからの特別支援教育 発達支援とインクルーシブ社会実現のために」日本発達心理学会 「発達障害」分科会監修 北樹出版			
参考書・参考資料等			
「小・中学校の教師のための 特別支援教育入門」小谷裕実他著 ミネルヴァ書房			
学生に対する評価			
レポート試験(20%) 授業ごとに課す小レポート(80%)			

授業科目名：発達障害への支援	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 西山 剛司
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標 「発達障害」といわれる児童生徒に対して、的確な理解と適切な支援を行うことができる基礎的な知識を身につけ、概要を述べることができる。			
授業の概要 人は元々多様であり、その多様な発達について基本的な考え方を学ぶ。 「発達障害」といわれる児童生徒についての適切な理解を踏まえた的確な指導や支援の基本を学ぶ。 インクルージョンの理念を踏まえ、特別支援教育の基本と現在の到達点及び課題を学ぶ。			
授業計画 第1回：「ヒト」はなぜ発達したのか 第2回：「発達障害」とは何か 第3回：ASDの理解と支援 第4回：IDの理解と支援 第5回：AD/HDの理解と支援 第6回：SLDの理解と支援 第7回：DCDの理解と支援 第8回：「一次的障害と二次的障害」と「一次障害と二次障害」 第9回：生態学的・包括的アセスメント 第10回：コミュニケーションの支援 第11回：「行動変容」を促す支援 第12回：認知機能への支援 第13回：情動調整への支援 第14回：身体・運動に働きかける支援 第15回：「発達の最近接領域」に働きかける 定期試験			
テキスト 特になし。授業中に適宜資料を配布する。			
参考書・参考資料等			

「自閉症 もうひとつの見方」バリー・プリザント、福村出版・2018

「『発達障害』だけで子どもを見ないで その子の『不可解』を理解する」田中康雄、SB新書・2019

「『知らない』のパフォーマンスが未来を創る」ロイス・ホルツマン、ナカニシヤ出版・2020

「ポリヴェーガル理論で実践する子ども支援」伊藤二三郎、遠見書房・2022

学生に対する評価

定期試験はレポートによる(50%) 授業ごとに課すミニレポート(30%) 授業への貢献・発言等(20%)

授業科目名：教育課程論	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：田中 潤一
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
・教育課程が子どもの発達・成長に対してもつ意義を理解する。 ・教育課程を編成する際の基礎・基本となる考え方を知る。 ・カリキュラム・マネジメントを教育行政・学校経営の側面から考える。			
授業の概要			
本講義では教育課程編成の重要性を、理論・歴史的背景・法的基礎から修得することを目的とする。カリキュラムを編成する際、どのような思想を基礎として編成されるのか、またどのような法的基盤を根拠として成り立っているのか等を多角的な視点から学ぶ。本講義では、こうした背景的な知識を学ぶとともに、教科・道徳・外国語活動・総合的な学修の時間・特別活動の授業作りについても全体的な視野から考察する。また近年大きな課題となっているカリキュラム・マネジメントについても考える。「主体的・対話的で深い学び」等幼児、児童及び生徒が主体となる授業運営や、学校経営の立場からのカリキュラム編成について考察する。			
授業計画			
第1回：教育課程の役割と学習指導要領・幼稚園教育要領			
第2回：教育課程編成と社会との関わり（「社会に開かれた教育課程」）			
第3回：教育課程編成の原則（1）一児童中心主義と学問中心主義			
第4回：教育課程編成の原則（2）一カリキュラム編成の類型			
第5回：教育課程編成の原則（3）一具体的なカリキュラム編成、授業時数の運用			
第6回：カリキュラム編成の方法（1）一領域・教科教育と子供の学び			
第7回：カリキュラム編成の方法(2) 一特別活動と道徳の時間			
第8回：カリキュラム・マネジメント(1) 一主体的・対話的で深い学び、PDCAサイクル等			
第9回：カリキュラム・マネジメント(2)一教育行政・学校経営と教育内容			
第10回：教育課程の歴史（1）一戦後から高度経済成長期まで			
第11回：教育課程の歴史（2）一昭和52年から平成10年まで			
第12回：教育課程の歴史（3）一平成20年、30年の学習指導要領・幼稚園教育要領とその意義			
第13回：教材開発と教育課程編成一豊かな授業をするための準備			
第14回：教育課程の評価			
第15回：教員の資質向上と教育課程編成			

定期試験
テキスト 田中潤一『教育課程の理論と方法』北斗書房、平成28年
参考書・参考資料等 ・幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省） ・小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） ・中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） ・高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
学生に対する評価 授業内小テスト30%、定期試験40%、小レポート30%

授業科目名：道徳教育 指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 田中 潤一 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法		
授業のテーマ及び到達目標 業の到達目標及びテーマ ・「道徳」概念と道徳教育の理論を理解する ・ 現代日本の学校教育（特に中学校）における道徳教育の現状を知る ・ 「特別な教科 道徳」の指導法の修得（学習指導案作成及び教材研究の方法、模擬授業を通 しての道徳科の授業法開発）			
授業の概要 本講義では、学校教育における道徳教育および「特別な教科 道徳」の重要性について考察する。「 道徳教育の理論」においてはソクラテス、ロック、カントの道徳教育思想を参考に、道徳の本質や道 徳性の発達について考察する。また日本の道徳教育の歴史を概観する。「道徳の指導法」では、道徳 教育の学習指導案作成や教材研究、模擬授業などの実践を行う。具体的には中学校各学年のそれぞ れの教材を使用する。道徳教育の評価や指導法の在り方を考察し、道徳教育が学校教育において持つ 意義を考察する。			
授業計画 第1回：人間存在と道徳（道徳の概念、教育愛、主体的な社会形成、法や規則の重要性） 第2回：小学校・中学校学習指導要領における道徳教育の目標と内容 第3回：道徳教育の理論（1）道徳教育における教師の役割（ソクラテス・ロック） 第4回：道徳教育の理論（2）子どもの道徳性の成長と自律性の育成 （シュライアーマッハー・ヘルバルト） 第5回：道徳教育の理論（3）他者関係の構築（田辺哲学）、崇高なもの育成（西田哲学） 第6回：道徳教育の歴史（明治から戦後） および現代の諸問題（いじめ・不登校など） 第7回：小学校・中学校「特別な教科 道徳」の授業構成・指導計画 第8回：「道徳科」の教材研究・学習指導案作成（「A 主として自分自身に関すること」の教材から ） 第9回：模擬授業および学習指導案の再検討（「A 主として自分自身に関すること」） 第10回：「道徳科」の教材研究・学習指導案作成（「B主として人とかかわりに関すること」の 教材から） 第11回：模擬授業および学習指導案の再検討（「B主として人とかかわりに関すること」） 第12回：「道徳科」の教材研究・学習指導案作成（「C主として集団や社会との関わりに関す ること」「D主として生命や自然、崇高なものとかかわりに関すること」の教材から） 第13回：模擬授業および学習指導案の再検討（「C主として集団や社会との関わりに関す ること」「D主として生命や自然、崇高なものとかかわりに関すること」） 第14回：道徳教育の評価について			

第15回：道德教育における指導法
定期試験
テキスト 『イチからはじめる道德教育』 田中潤一編、ナカニシヤ出版 平成29年『小学校学習指導要領』（平成29年3月告示、文部科学省） 平成29年『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示、文部科学省）
参考書・参考資料等 『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道德編』（平成29年7月、文部科学省） 『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道德編』（平成29年6月、文部科学省）
学生に対する評価 定期試験（60%）、学習指導案作成および模擬授業（30%）、授業中小レポート（10%）

授業科目名：総合的な学習の時間の指導法B	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：1 単位	担当教員名：橋本 祥夫
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	総合的な学習（探求）の時間の指導法		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解することができる。			
・ 総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付けることができる。			
・ 総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解することができる。			
授業の概要			
総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す。各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。			
授業計画			
第1回：総合的な学習の時間の意義と目指す資質・能力			
第2回：総合的な学習の時間の指導と評価の考え方及び実践上の留意点			
第3回：総合的な学習の時間の実践事例1 防災教育を事例に			
第4回：総合的な学習の時間の実践事例2 キャリア教育を事例に			
第5回：総合的な学習の時間の実践事例3 シティズンシップ教育を事例に			
第6回：総合的な学習の時間の単元構想			
第7回：総合的な学習の時間の指導計画の作成			
第8回：総合的な学習の時間の学習指導（模擬授業）			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）			
中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（平成29年7月 文部科学省）			
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）			
高等学校学習指導要領解説 総合的な探求の時間編（平成30年7月 文部科学省）			

『京都・宇治発 地域協働の総合的な学習―「宇治学」副読本による教育実践―「宇治学」副読本による教育実践』橋本祥夫編著（ミネルヴァ書房）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

レポート試験30% グループ発表20% 毎回の小レポート50%

授業科目名：特別活動 論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 浅田 瞳、原清治
			担当形態： 複数・オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別活動の指導法		
授業のテーマ及び到達目標 「教科教育と教科外教育の相互関連に注目し特別活動の具体的な取り組みを理解し、指導に必要な知識や素養を身につける」 1) 特別活動の目的および目標を説明できる 2) 特別活動が子どもたちに与える影響について説明できる 3) 学校行事の特質やその行事内容について、実際の活動を通して説明できる			
授業の概要 教科教育と教科外教育は、学校教育の「両輪」をなすものであるといわれる。昨今の教育においては、「ゆとり」を標榜して子どもたちの学習に対する関心や意欲・態度に大きなウエイトをかけすぎる学校がある一方で、「知識偏重」というかけ声とともに基礎・基本に重きを置きすぎ、受験教育などといわれる学歴社会の弊害が指摘される学校もある。 この授業では、特別活動の目的および目標はどのような理論に根差して展開しているものなのか、実際に学校行事に参加することで学びを深める。子どもたちにとって特別活動はどのような影響を与えるものなのか、具体的な取り組みを通して理解することを目的とする。			
授業計画 第1回：特別活動とは-特別活動の基本理念（担当：原清治） 第2回：学校教育における特別活動の位置（担当：原清治） 第3回：特別活動の基本的な性格および指導原理（担当：原清治） 第4回：特別活動の実際-小学校学級活動・中学校学級活動・高等学校ホームルーム活動で合意形成に向けた話し合い活動の意義 （担当：浅田瞳・原清治） 第5回：特別活動の実際-児童会・生徒会活動（担当：浅田瞳・原清治） 第6回：特別活動の実際-学校行事で家庭・地域住民と連携する（担当：浅田瞳・原清治） 第7回：総合的な学習時間及びクラブ活動・部活動の指導（担当：浅田瞳・原清治） 第8回：特別活動における今後の課題：特別活動をどう評価するか（担当：浅田瞳・原清治）			
定期試験			
テキスト			

『(新しい教職教育講座 教職教育編9)特別活動』中村豊・原清治、ミネルヴァ書房
参考書・参考資料等 ・小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） ・中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） ・高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省） その他は授業中に適宜資料を提示
学生に対する評価 定期試験（50％）、毎回の授業後に提出する小レポート（50％）

授業科目名： 教育の方法及び技術（ 情報通信技術の活用含 む）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大前暁政 真下知子 担当形態： 複数・オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の方法及び技術 ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>これからの時代に求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法及び教育の技 術に関する知識・技能を理解し、実際の指導場面で活用することができる実践的指導力を養う 。また、情報機器及び教材を効果的に活用するための基礎的な知識・技能を身に付ける。園児 ・児童・生徒の資質・能力を育成するために必要な教育理論と、その理論に沿った教育の方法 や技術などの実践例を理解し、指導に関する基礎的な知識と技能を修得する。</p> <p>情報通信技術を効果的に活用した学習指導や、校務の推進の在り方、情報活用能力を育成す る指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。情報通信技術の活用の意義と理論を理解 し、学習指導や校務の推進、情報活用能力の育成の仕方などの具体的な方法を修得する。</p>			
授業の概要			
<p>園児・児童・生徒の資質・能力を育成する上で必要となる教育の方法・技術を、理論と実践 に分けて教授していく。日本における理論だけでなく、諸外国の理論も紹介し、幅広い知識・ 技能を修得できるようにする。理論とともに、具体的な場面における指導例や授業実践を教授 する。教科等の指導に加え、学級経営や子供への対応、子供理解などにおける教育方法・技術 も教授し、子供の自立を促し、資質・能力を総合的に育成するための方法を、具体的な事例を もとに理解できるようにする。また、情報通信技術を活用した教育の理論・方法を教授し、情 報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方、情報活用能力の育成するた めの指導法を修得できるようにする。</p>			
授業計画			
第1回：教育方法の理論・実践と情報通信技術の活用の意義と在り方（大前暁政）			
第2回：「教え方」と育てたい「資質・能力」の歴史的変遷と教育方法論（大前暁政）			
第3回 教育方法の理論・実践と教育課程の編成・教材研究（大前暁政）			
第4回：育成を目指す資質・能力や学習場面に応じた教育方法・技術と情報通信技術の活用（ 大前暁政）			
第5回：発達段階を考慮し学習のレディネスを有効にするための教育方法の理論（真下知子）			
第6回：教授方法の設計と評価活動及び学習指導と評価の一体化（真下知子）			
第7回：情報通信技術がもたらす学習理論・形態の変化及び授業研究・改善の方法（真下知子）			

)

第 8 回：ICT環境の整備の在り方及び情報通信技術を効果的に活用した学習指導と校務の推進
(真下知子)

第 9 回： 外部人材・外部機関との連携による情報通信技術の教育への活用と情報活用能力の
育成に関する理論と方法 (大前暁政)

第 10 回：教育方法の理論と情報通信技術・教材を活用した指導案の作成演習 (大前暁政、真
下知子)

第 11 回：教育方法の理論と情報通信技術・教材を活用した模擬授業・模擬保育とその評価 (大
前暁政、真下知子)

第 12 回：学習集団の組織化と個別指導の方法 (特別支援教育を含む) (真下知子)

第 13 回：授業と学級経営を連動させる理論と実践 (大前暁政)

第 14 回：自立を促す指導方法と学校環境づくり (大前暁政)

第 15 回：情報通信技術がもたらす現代の教育改革と教育方法の方向性と課題 (真下知子)

定期試験

テキスト

「プロ教師直伝！授業成功のゴールデンルール」大前暁政著 (明治図書)

参考書・参考資料等

- ・小学校学習指導要領 (平成 29 年 3 月告示 文部科学省)
- ・中学校学習指導要領 (平成 29 年 3 月告示 文部科学省)
- ・高等学校学習指導要領 (平成 30 年 3 月告示 文部科学省)
- ・幼稚園教育要領 (平成 29 年 3 月告示 文部科学省)
- ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生
労働省)
- ・「子どもを自立へ導く学級経営ピラミッド」大前暁政著 (明治図書)
- ・「できる教師の「対応力」 ー逆算思考で子どもが変わるー」大前暁政著 (東洋館出版社)

学生に対する評価

課題とレポート作成 (30%)、学習指導案と模擬授業・模擬保育 (40%)、試験 (30%)
によって評価する。

授業科目名：生徒指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 澤 達大
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、教育活動全体を通じて行われるのが生徒指導である。生徒指導を進めるために必要な知識・技能や素養を身に付ける。			
到達目標			
1 学校教育における「生徒指導」の概念と体系、その意義について理解することができる。			
2 生徒理解の手法をさぐり必要性を認識することができる。			
3 生徒指導のうえで重要な「学級経営」のあり方・進め方について考察することができる。			
授業の概要			
生徒指導とは、社会の中で自分らしく生きることができる存在へと児童生徒が、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動のことである。授業では、学校教育における生徒指導の基礎的理論やその体系、連携等について考察する。学生の実験や特別講師の学校現場の話、さらに新聞やニュース映像などのトピックを用いて、具体的な課題を共有する			
授業計画			
第1回：授業概要の説明、生徒指導のイメージ共有			
第2回：生徒指導の定義と目的			
生徒指導の目的と課題を理解し、教育課程における生徒指導の位置付けを理解する。			
第3回：生徒理解の方法			
生徒指導で最も大切なことは生徒理解である認識を持ち、意義と目的、その構造を考察する。			
第4回：生徒指導の体系（組織と計画）			
実際の生徒指導全体計画を比較しながら、教職員全体で取り組む全体計画をさぐる。			
第5回：生徒指導と教育課程①			
生徒指導の基礎理論を知り、個別生徒指導の意義と特性を考察する			
第6回：生徒指導と教育課程②			
集団的生徒指導の意義と特性を考察し、優れた学級経営について実践例から学ぶ			
第7回：規範意識を醸成する指導			
規則やルールとは何か「きまりの本質」を捉え、さらに効果的なほめ方と叱り方を考える。			

第8回：生徒指導上の課題への対応①

「自分のクラスでトラブル発生」 場面設定から生徒への対応を考える。

第9回：生徒指導上の課題への対応②

「いじめの兆候が表れた」 場面設定から生徒への対応を考える。

第10回：生徒指導上の課題への対応③

「学校でトラブル発生」 場面設定から学年教員団としての対応を考える。

第11回：生徒の変化と現代的課題

スマートフォンやSNSの弊害について、脳科学の視点も交えて理解し、対策を考える。

第12回：多様な背景をもつ生徒への対応を考える

さまざまな障がいや外国にルーツをもつ生徒・家庭への対応を考える。

第13回：学校外（家庭・地域）との連携

チーム学校として関係各機関と連携することの重要性や課題を考察する

第14回：外部講師による講義と意見交換

実際の現場で生徒指導部主任を担当する教員からお話を伺い、意見交換をする。

第15回：私の生徒指導論

教師として生徒指導で何を大切にするか、授業全体を踏まえ自らの考えを発表する。

定期試験は実施しない

テキスト

- 「生徒指導提要」生徒指導提要の改訂に関する協力者会議（2022）文部科学省.

参考書・参考資料等

- 『よくわかる生徒指導・キャリア教育』小泉令三編著、ミネルヴァ書房
- 「月刊 生徒指導」学事出版

学生に対する評価

到達目標の達成度を測るため、次の観点から成績評価を行う。

- 毎回の授業でのグループ討議への参加状況
- 課題ワークシートへの取り組み
- グループでの発表と質疑応答

種別と割合 平常点 80%（小テスト 10%、課題・レポート類・グループワーク 70%）

最終レポート 20%

授業科目名：教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 島田 香
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 教育相談に必要な、児童の発達課題の理解に関する知識を得る。			
2. 教育相談の学校内での体制などについての知識を得る。			
3. 教育相談を進める上で必要な、児童に対する関わりのあり方を身に着ける。			
授業の概要			
教育相談活動について基本的な考え方や知識を身につけ、実際の子どもへの関わり方や指導について学ぶ。学校教育における教育相談の基本的な考え方に始まり、児童生徒理解の基本として、ライフサイクル・発達課題について学び、さらにカウンセリングの諸理論について論じる。そして、教育相談でテーマになる不登校やいじめなどの様々な事象への対応について、事例を通して論じる。			
授業計画			
第1回：学校における教育相談の意義と課題			
第2回：教育相談に関わる心理学の基礎的な理論			
第3回：学校におけるカウンセリング			
第4回：カウンセリングの基本技法			
第5回：教育相談におけるアセスメント			
第6回：幼児期の発達課題と教育相談			
第7回：児童期の発達課題と教育相談			
第8回：思春期・青年期の発達課題と教育相談			
第9回：いじめ問題への対応			
第10回：不登校(園)と教育相談			
第11回：保護者支援と教育相談			
第12回：学級担任が行う教育相談			
第13回：学校全体で進める教育相談			
第14回：スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの役割			
第15回：専門機関との連携			
定期試験			

テキスト

教育相談の理論と方法(会沢信彦編著、北樹出版)

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

平常点30% 期末試験70%

授業科目名：進路指導 ・キャリア教育の理論 と方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 橋本 祥夫
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解することができる。			
・ 全ての児童及び生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方を理解することができる。			
・ 児童及び生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解する。			
授業の概要			
進路指導は、児童及び生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。それを包含するキャリア教育は、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としている。			
進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。			
授業計画			
第1回：進路指導・キャリア教育の意義や原理			
第2回：進路指導・キャリア教育の課題			
第3回：学校教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導			
第4回：職場体験によるキャリア教育の実践事例			
第5回：特別活動によるキャリア教育の実践事例			
第6回：教科学習によるキャリア教育の実践事例			
第7回：キャリア・パスポートの意義と活用事例			
第8回：キャリア・カウンセリングの理論と方法			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）			

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

レポート試験30% グループ発表20% 毎回の小レポート50%

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習（中・高）		単位数：2単位		担当教員名：浅田 瞳、澤 達大	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数 20人を想定					
教員の連携・協力体制					
授業はすべてチームティーチングで進める。また学校現場に足を運び講義を聞く機会を持つ。					
授業のテーマ及び到達目標					
教員免許取得に関する「最終みきわめ」の授業で、4年間の総まとめをするとともに、教育実習だけでは現場教員として不足している内容を補填する。					
1 教育実習を終えた現在までのまとめと振り返りを中心に、自らの長所・短所を指摘することができる					
2 自己のめざす教師像を明確にし、不足する能力や授業技術の向上に努めることができる					
3 学校見学や講演などを通して、教育界全体の課題を指摘し、改善についての意見交換をすることができる					
4 ディスカッションでファシリテーターとして役割を果たし、話し合い活動を仕切ることができる					
授業の概要					
1. 自己の学習の振り返りとまとめ					
・4年間の学習歴を時系列でなく、教員免許状取得の課程に沿ってまとめなおす。					
・教職課程の授業以外で学んだ事をまとめる。（スクールボランティア、教師塾など）					
・自己のめざす教師像との関係性を考える。					
2. 自己の教師像と学校教育の中での教師像					
自己からみた教師像と教師の使命、責任感、教育愛などの関係を矛盾なく考えられるか。特にこれらの教師像がひとりよがりのものではなく、具体的な生徒理解の上にたった客観的・相対的なものとなっていることを確認する。					
3. 実際に教育を行える教師像に向けて					
自己に不足している知識や技術を知り、その原因は何か、どうすれば修得できるかを考える。特に学級経営や教科内容など、実際の指導力については重点的に確認を行い、授業外でも補完指導を行うなどして修得を目指す。					
授業計画					
第1回：オリエンテーション					
教職履修カルテを用いた教職の学びの振り返り、現段階の「私の目指す教師像」作成					
第2回：グループ討議① テーマ 教師の働き方					
教師の業務について、教育実習を振り返り、改めて考える。					
第3回：グループ討議② テーマ 制服					
そもそも制服は必要か、新しい時代の制服とは					
第4回：グループ討議③ テーマ 校則					
学校でのきまりの本質をさぐり、よりよい校則の在り方を考える。					
第5回：グループ討議④ テーマ 評価					

<p>ある学校の生徒作品について、評価基準から点数をつけた結果を基に議論をする</p> <p>第6回：グループ討議⑤ テーマ 配慮を必要とする生徒の受入れ</p> <p>トランスジェンダーや発達障害など、生徒をめぐる環境に教員はどう対処すべきか</p> <p>第7回：実地研修① 多文化共生に関連する施設や学校の訪問</p> <p>多文化化が進む施設や学校へ訪れ、外国にルーツをもつ生徒への対応を考える。</p> <p>第8回：実地研修② 多文化共生に関連する施設や学校の訪問</p> <p>多文化化が進む施設や学校へ訪れ、現場の教員等からお話を聞く</p> <p>第9回：実地研修③ 小中一貫教育</p> <p>小中一貫教育を行っている学校へ訪れ、校舎や授業のようすを見学する。</p> <p>第10回：実地研修④ 小中一貫教育</p> <p>小中一貫教育校へ訪れ、現場の教員の話聞き、今後の小中一貫教育の展開を考える。</p> <p>第11回：実地研修⑤ 教科センター方式の教育</p> <p>教科センター方式（教科教室制）の校舎を見学し、教育の新しい展開を考察する。</p> <p>第12回：実地研修⑥ アクティブラーニング</p> <p>アクティブラーニングの実際について、現職教員と情報交換を行う。</p> <p>第13回：ICTを活用した授業展開（オンライン模擬授業）</p> <p>教育実習の研究授業の題材を使ってオンライン授業を行い、非対面授業の課題を考える。</p> <p>第14回：ロールプレイによる教育現場の理解（保護者対応）</p> <p>さまざまな場面設定から教師・生徒・保護者を演じ、振り返り理解を深める。</p> <p>第15回：「私のめざす教師像」発表</p> <p>授業のまとめ（全体発表）。教職履修カルテの入力（4年間の学びを振り返る）。</p> <p>定期試験は実施しない</p>	
<p>テキスト</p> <p>授業中に適宜資料を配布する。</p> <p>学生はPCを持参し、文部科学省、国立教育政策研究所、日本教育新聞の資料を活用する。</p>	
<p>参考書・参考資料等</p> <p>なし</p>	
<p>学生に対する評価</p> <p>・到達目標1と2については、振り返りノート・最終レポート、3と4については日々の授業でのグループ討議での取り組みから総合的に評価する。</p> <p>平常点（100％）授業（グループ討議）への参加 20％</p> <p>振り返りノート・その他成果物 50％ 最終レポートと発表 30％</p>	

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。